

Pioneer

CD/チューナー・DSP メインユニット

DEH-P999

取扱説明書

carrozzeria

目次 4 ページ

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



注意

このような絵表示は、注意 (警告を含む) しなければならない内容です。



禁止

このような絵表示は、禁止 (やってはいけないこと) の内容です。



必ず行う

このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

警告

[異常時の処置]

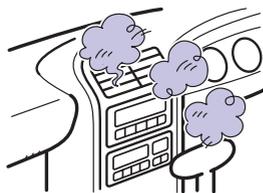
故障のまま使用しない



禁止

画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



禁止

万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



必ず行う

ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

目次

はじめに

- | | | |
|---|-----------------------|----|
| 1 | 各部のなまえ | 6 |
| 2 | リモコンの準備 | 8 |
| 3 | バッテリー上がりを防ぐために | 8 |
| 4 | 50枚型マルチCDプレーヤーの使用について | 8 |
| 5 | 「CD TEXT」について | 9 |
| 6 | デモモードについて | 9 |
| 7 | 本機のリセットについて | 10 |
| 8 | フロントパネルの取り扱いについて | 10 |
| 9 | セレクションキーの操作について | 12 |

ここだけでここだけ読めばすぐ使えます

- | | | |
|---|----------------|----|
| 1 | 聞きたいソース（音源）を選ぶ | 14 |
| | 電源を切る | |
| 2 | 内蔵CDのふだんの操作 | 16 |
| | CDを再生する | |
| | 曲を選ぶ | |
| | 早送り/早戻しをする | |
| | 音量を調節する | |
| | CDを取り出す | |
| 3 | ラジオのふだんの操作 | 18 |
| | バンドを選ぶ | |
| | 放送局を選ぶ | |
| | 音量を調節する | |
| 4 | マルチCDのふだんの操作 | 20 |
| | CDを選ぶ | |
| | 曲を選ぶ | |
| | 早送り/早戻しをする | |
| | 音量を調節する | |

内蔵CD 内蔵CDでCDを聞く

- | | | |
|---|----------------|----|
| 1 | モードの切り換えかた | 22 |
| 2 | 同じ曲を繰り返し聞く | 23 |
| 3 | いつもと違う曲順で聞く | 23 |
| 4 | 聞きたい曲をさがす | 23 |
| 5 | 曲名を見て聞きたい曲をさがす | 24 |
| 6 | CD再生を一時停止する | 24 |
| 7 | CDのタイトルを入力する | 25 |
| 8 | タイトル表示を切り換える | 25 |

ラジオ ラジオを聞く

- | | | |
|---|---------------------|----|
| 1 | 放送局を1局ずつ記憶させる | 26 |
| 2 | 記憶させた放送局を呼び出す | 27 |
| 3 | モードの切り換えかた | 27 |
| 4 | 複数の放送局を自動的に記憶させる | 28 |
| 5 | 放送局名を見て聞きたい放送局を呼び出す | 29 |
| 6 | 放送局名を選ぶ | 29 |

マルチCD マルチCDでCDを聞く

(別売のマルチCDを組み合わせたときのみ)

- | | | |
|----|--------------------|----|
| 1 | 聞きたいCDを直接選ぶ | 30 |
| 2 | モードの切り換えかた | 30 |
| 3 | 同じ曲やCDを繰り返し聞く | 31 |
| 4 | いつもと違う曲順で聞く | 32 |
| 5 | 聞きたい曲やCDをさがす | 32 |
| 6 | 曲名を見て聞きたい曲をさがす | 33 |
| 7 | タイトルを見て聞きたいCDをさがす | 34 |
| 8 | CD再生を一時停止する | 34 |
| 9 | CDのタイトルを記憶させる | 35 |
| 10 | CDの音質を調整する | 37 |
| 11 | 聞きたい曲だけ記憶させておく | 38 |
| 12 | 記憶させた曲だけ再生する | 39 |
| 13 | 記憶させた曲を1曲ずつ記憶から消す | 39 |
| 14 | 記憶させた曲をCDごとに記憶から消す | 40 |
| 15 | タイトル表示を切り換える | 41 |

1枚型MD 1枚型MDでMDを聞く

(別売の1枚型MDを組み合わせたときのみ)

- | | | |
|---|---------------|----|
| 1 | 1枚型MDのふだんの操作 | 42 |
| 2 | ファンクションモードの操作 | 43 |
| 3 | タイトル表示を切り換える | 43 |

マルチMD マルチMDでMDを聞く

(別売のマルチMDを組み合わせたときのみ)

- | | | |
|---|---------------|----|
| 1 | マルチMDのふだんの操作 | 44 |
| 2 | ファンクションモードの操作 | 45 |
| 3 | タイトル表示を切り換える | 45 |

テレビ テレビを見る

(別売のテレビを組み合わせたときのみ)

- | | | |
|---|------------|----|
| 1 | テレビのふだんの操作 | 46 |
|---|------------|----|

C O N T E N T S

- 2 ファンクションモードの操作 47
- 3 チャンネル一覧から見たいチャンネルを呼び出す 43

音の調節

音を調節する

- 1 カーオーディオ調節のポイント 48
- 2 イコライザーカーブを選ぶ 49
- 3 オーディオ調節モードの切り換えかた 50
- 4 前後左右の音量バランスを調節する 51
- 5 小音量時の音にメリハリをつける 51
- 6 イメージに合った演奏会場を再現する 52
- 7 イコライザーカーブを大まかに補正する 53
- 8 イコライザーカーブを細かく調節する 54
- 9 騒音に合わせて音量を変える 55
- 10 音場の中心で聞く 55
- 11 車種に合ったタイムアライメントを選ぶ 56
- 12 タイムアライメントを調節する 57
- 13 サブウーファーを使う 58
- 14 低い音を出力しないようにする 59
- 15 各ソースの音量の違いをそろえる 61
- 16 オートイコライザーをON/OFFする 61
- 17 音の歪みを補正する 62
- 18 オートイコライジングを行う前に 62
- 19 オートイコライジングを行う 64

便利な機能

便利な機能と初期設定

- 1 瞬時に音量を小さくする 66
- 2 よく使う機能を直接操作する 66
- 3 交通情報を受信する 67
- 4 時計・カレンダーを表示・調節する 68
- 5 カスタムメニューの切り換えかた 70
- 6 表示画面を選ぶ 71
- 7 ディスプレイの明るさを調節する 71
- 8 夜間のディスプレイの明るさを切り換える 71
- 9 背景のパターンを選ぶ 71
- 10 エンタテインメントを表示させる 72
- 11 初期設定モードの切り換えかた 74
- 12 リバースモードをON/OFFする 75
- 13 フィーチャーデモをON/OFFする 75
- 14 外部機器の音声を聞く 76
- 15 外部機器の名称を入力する 77
- 16 ミュート/アッテネートを切り換える 77
- 17 RCA外部出力から出力される信号を選ぶ 78

すぐに使いたいときは、
ここをお読みください。

ここだけ読めば
すぐ使えます

はじめに

内蔵CDでCDを聞く

ラジオを聞く

マルチCDでCDを聞く

1枚型MDでMDを聞く

マルチMDでMDを聞く

テレビを見る

音を調節する

便利な機能と初期設定

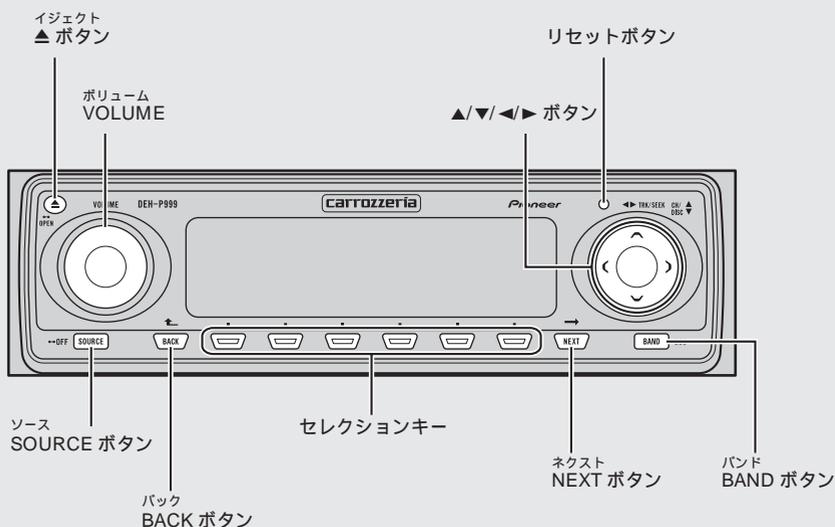
その他 (付録)

その他

その他 (付録)

- 1 CDの正しい使いかた 80
- 2 故障かな?と思ったら 82
- 3 こんなメッセージが表示されたら 84
- 4 保証書とアフターサービス 85
- 5 おもな仕様 86

本体



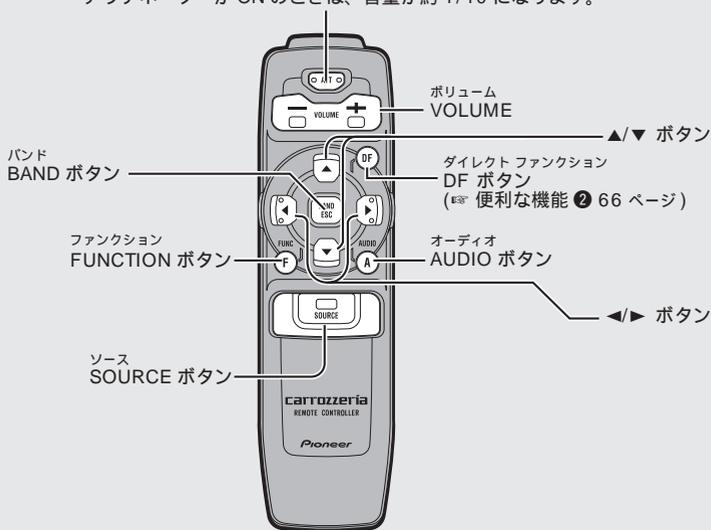
セレクションキーについて

「セレクションキー」は、ディスプレイの表示に合わせて機能が変わるボタンです。「セレクションキー」は、選んでいるモードによって、操作できる機能が異なります。

リモコン

各ボタンは、本体の同じなまえのボタンと同じ働きをします。

アッテネーター
ATT ボタン (☞ 便利な機能 ① 66 ページ)
押すごとにアッテネーターが ON/OFF します。
アッテネーターが ON のときは、音量が約 1/10 になります。



FUNCTION ボタンについて

FUNCTION ボタンを押すと、ファンクションモードを切り換えることができます。

(☞ 内蔵 CD ① 22 ページ)

(☞ ラジオ ③ 27 ページ)

(☞ マルチ CD ② 30 ページ)

AUDIO ボタンについて

AUDIO ボタンを押すと、オーディオ調節モードを切り換えることができます。(☞ 音の調節 ④ 50 ページ)

DF ボタンについて

DF ボタンを押すと、ソースごとにあらかじめ記憶されている機能を直接操作することができます。内蔵 CD・マルチ CD・1 枚型 MD でポーズ、マルチ MD でリピート、ラジオで BSM、テレビで BSSM を操作することができます。(☞ 便利な機能 ② 66 ページ)

はじめに

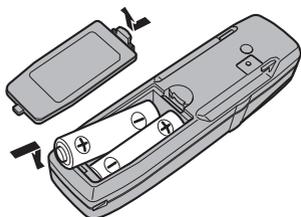
2

リモコンの準備

付属のリモコンを使うための準備です。

リモコンに電池を入れる

裏フタを開けて、単4形乾電池 (R03) 2本をセットします。



リモコンの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。

リモコン取り扱い上のご注意

リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障する恐れがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。

本体に直射日光が当たっていると、リモコンの操作ができないときがあります。このようなときは、本体にリモコンを近づけて操作してください。

乾電池は、充電しないでください。リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。

電池の液もれが起こったときは、内部についた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。

不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示 (条例) に従って処理してください。

はじめに

3

バッテリー上がりを防ぐために

バッテリー上がりを防ぐためのご注意

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。

また、本機が電源OFFのときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のイグニッションスイッチをON (またはACC) にしないでください。バッテリーが上がる恐れがあります。

はじめに

4

50枚型マルチCDプレーヤーの使用について

使用できる機能について

本機では、50枚型マルチCDプレーヤーの取扱説明書に記載されている50枚型マルチCDプレーヤー特有の機能を操作することはできません。本機で操作できるのは、本書に記載されている機能のみです。

メモ

誤ってリモコンのBANDボタンを押しながらFUNCTIONボタンを押してしまうと、VOLUME、DFボタン、ATTボタンが効かなくなります。この場合、リモコンのBANDボタンを押しながらAUDIOボタンを押すと、元に戻ります。

はじめに

5

「CD TEXT」について

「CD TEXT」について

「CD TEXT」とは、CDのタイトル/歌手名/曲名などの文字情報が収録されたCDです。ディスクタイトル面に下記マークのついているCDは、「CD TEXT」です。(下記マークが付いていない「CD TEXT」もあります。)



タイトル表示について

本機はカナやアルファベットなどの表示だけでなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。「CD TEXT」に漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。

はじめに

6

デモモードについて

本機には、リバースモードとフィーチャーデモの2つのデモモードがあります。

リバースモードについて

リバースモードは、各ソースを聞いているときに約30秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は、10秒間隔で行われます。

リバースモードを解除したいときは、車のイグニッションスイッチがON(またはACC)のときに本機の電源をOFFにして5のボタンを押してください。もう一度押すと、ONになります。

フィーチャーデモについて

フィーチャーデモは、本機が電源OFFのときに、各ソースや本機の機能(エンタテインメント、SFCなど)の画面を表示して紹介する機能です。

フィーチャーデモを解除したいときは、フィーチャーデモが表示されているときに6のボタンを押してください。もう一度押すと、デモが始まります。

車のエンジンを止めた状態で、フィーチャーデモを長時間表示すると、バッテリー上がりの原因になります。

はじめに

メモ

赤リード線(アクセサリ電源)は、常に車のバッテリーから電源を供給する電源回路には接続しないでください。車のイグニッションスイッチと本機の電源をOFFにしても、フィーチャーデモが表示され、バッテリー上がりの原因になります。

はじめに

7

本機のリセットについて

リセット

本機を初期設定状態に戻すことができます。

リセットボタンについて

リセットボタンを押すと、本機のマイコンが初期設定状態（ご購入直後の状態）に戻ります。次のようなときに、リセットボタンを押してください。

接続が終わった後。

本機が正しく動作しないとき。

ディスプレイが正しく表示されないとき。

リセットボタンを押すと、本機の記憶（時計やラジオのプリセットなど）が消去されます。もう一度、セットしなおしてください。

ご注意

本機をリセットする前に、フロントパネルを開けておいてください。（CDを挿入口に差し込まないでください。）

はじめに

8

フロントパネルの取り扱

盗難抑制のため、フロントパネルを取り外すことができます。



注意

フロントパネルを開けたままで使用しない



禁止

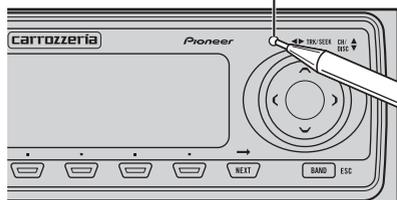
フロントパネルを開けたままでは使用しないでください。万一、事故が起きた場合、開けたままのフロントパネルに当たるとケガの原因となります。

7

本機をリセットする

ペン先などでリセットボタンを押す

リセットボタン



メモ

フロントパネルを開けたままリセットすると、自動的にフロントパネルが閉じます。

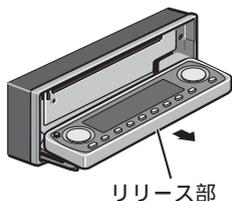
フロントパネルの取り外しかた

1 フロントパネルを開ける

▲ ボタンを2秒以上押す
フロントパネルが開きます。

2 フロントパネルを取り外す

リリース部を持ち、フロントパネルを
手前に引き抜く

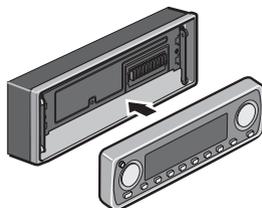


数秒後に中ボタンが自動的に閉まります。このとき、指などを挟み込まないように注意してください。

フロントパネルの取り付けかた

1 フロントパネルを取り付ける

フロントパネルを本体に“カチッ”と音がするまで押し込む

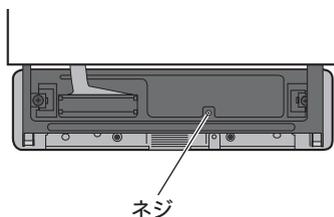


フロントパネルの固定ネジについて

フロントパネルを取り外す必要のない方は、付属のネジで固定してからお使いください。

1 ネジを取り付ける

フロントパネルを開けた状態で、フロントパネルと中ボタンをネジで固定する



メモ

フロントパネルを無理に引いて取り外さないでください。
取り外し、取り付けの際に、ボタンやディスプレイを強く持たないでください。
落とす、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。
高温になる場所や直射日光が当たる場所には置かないでください。
ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。表面が侵されることがあります。
分解しないでください。
本体およびフロントパネルの端子部を触らないでください。接触不良の原因となることがあります。
また、端子部が汚れたときは、きれいな乾いた布で拭いてください

セレクションキーの操作について

この説明書では、ファンクションモードやオーディオ調節モードの操作は、セレクションキーを基本として説明しています。

セレクションキーについて

「セレクションキー」は、ディスプレイの表示に合わせて機能が変化するボタンです。「セレクションキー」は、選んでいるモードによって、操作できる機能が異なります。また、「▶」表示は、セレクションキーに現在表示されている機能とは別の機能があることをあらわしています。「▶」が表示されているときにNEXTボタンを押すと、セレクションキーの機能を切り換えることができます。



この説明書では、「セレクションキー」での操作は表示される機能名をボタン名として説明しています。(例えば、「FUNC」と表示されている「セレクションキー」は、FUNCボタンと言います。)

基本画面について

CDを聞いているときなどの基本画面には、FORM 1とFORM 2の2つの表示方法があります。(▶ 便利な機能⑥ 71ページ)

FORM 1



FORM 2



この説明書では、FORM 1を例に説明していますので、FORM 2を選んでいる場合、「セレクションキー」の表示が一部異なることがあります。

BANDボタンとBACKボタンの違いについて

BANDボタンは、選んでいるモードに関係なく一度で基本画面に戻ることができます。(ラジオやテレビでは、モードを選んでいるときにBANDボタンを押すと、バンド切り換えになります。)

BACKボタンは、選んでいるモードを解除し、一つ前のモード(画面)に戻ることができます。

ガイド表示について

この説明書では、各モードの操作についてセレクションキーを基本として説明していますが、機能のON/OFFなど▲/▼/◀/▶ボタンでも操作できるものがあります。▲/▼/◀/▶ボタンでも操作することができるときは、ガイド表示が出ます。



表示の例	内容
	▲/▼/◀/▶ボタンで操作 できます。
	▲または▼ボタンで機能の ON/OFFができます。
	◀または▶ボタンで項目を選 ぶことができます。

セレクションキーの操作 (例：内蔵CDのランダムプレイ)

1 “FUNC” を表示させる

NEXT ボタンを押す
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

FUNC AUDIO EQ TITLE ENT ATT ▶

TI MORE CLK MENU ▶

FUNC AUDIO EQ TITLE ENT ATT ▶ に戻る

2 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す
ファンクションモードに切り換わり、セレクションキーの表示も次のように切り換わります。

RPT RDM SCAN HOUSE ▶

3 ランダムプレイ設定モードにする

RDM ボタンを押す
ランダムプレイ設定モードに切り換わります。



4 ランダムプレイをONにする

RDM ボタンを押す
ボタンを押すごとにON/OFFします。



ランダム再生がONになると、ランプが点灯します。

5 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す
ファンクションモードが解除されます。

メモ

セレクションキーは、選んだソースやモードによって、切り換わる機能や表示の数が異なります。セレクションキーの表示が出ていないボタンには機能がありません。この場合、そのボタンでは操作することはできません。ランダムプレイ設定モード中では、▲/▼ボタンでもランダムプレイをON/OFFすることができます。

聞きたいソース (音源) に切り換えることができます。

1 ソースを切り換える

SOURCE ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

内蔵CD

テレビ (別売)

ラジオ (FM/AM)

1 枚型 MD (別売)

マルチ MD (別売)

マルチ CD (別売)

External
(エクスターナルユニット 1) (別売)

External
(エクスターナルユニット 2) (別売)

AUX (外部機器) (別売)

内蔵CDに戻る

2 電源を切る

SOURCE ボタンを 1 秒以上押す
本機の電源が切れます。



ソース
SOURCE ボタン

メモ

接続していないソースには切り換わりません。CDやMDがセットされていないときは、そのソースには切り換わりません。

AUX (外部機器) の設定 (☞ 便利な機能 76 ページ) をONにしないと、AUXには切り換わりません。

本機の青リード線 (オートアンテナ) に車側のオートアンテナコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナがのびます。

External (エクスターナルユニット) とは、本機がソースとして対応していないパイオニア製品 (将来発売される製品など) の基本的な機能をコントロールできるように用意している特別なソースです。本機では、2台のExternal (エクスターナルユニット) をコントロールすることができますが、External1、External2のどちらに切り換えても“External”が表示されます。2台のExternal (エクスターナルユニット) を接続した場合、本機によって、External1、External2が自動的に設定されます。

テレビ、1枚型MD、マルチMDを接続したときは

操作のしかたは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

組み合わせ例

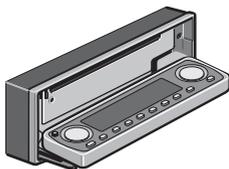
ソース	製品の型番
テレビ	「AVX-P7700W」
1枚型MD	「MDS-P7000」
マルチMD	「MD-P100II」

上記の製品の取扱説明書では、本機以外の製品を例にして、操作説明が行われている場合があります。その製品と対応しているボタンで操作を行ってください。

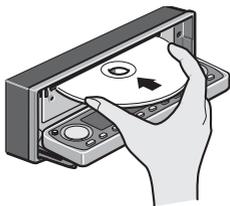
ここだけの操作で、CDを聞くことができます。

1 CDを再生する

▲ ボタンを押して、フロントパネルを開ける



タイトル面を上にして、CD挿入口に差し込む



自動的にフロントパネルが開まり、CDの再生が始まります。

ご注意

CDシングル(8 cm CD)もアダプターなしでセットできます。アダプターは絶対使用しないでください。

「CD TEXT」を再生する場合は、CDをセットしたときや、他のソースから内蔵CDに切り換えたときなどに、ディスクタイトルおよび曲名を自動的に1回スクロール表示します。

2 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 次の曲を選ぶとき(または早送り)
- ◀ : 前の曲を選ぶとき(または早戻し)



再生経過時間 曲番号

選曲と早送り/早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択	0.5秒未満
曲の早送り/早戻し	0.5秒以上押し 続けている間

「CD TEXT」を再生している場合は、曲を選んだときに、曲名を自動的に1回スクロール表示します。ただし、今聞いている曲の頭出しをしたときには、自動的にスクロール表示しません。

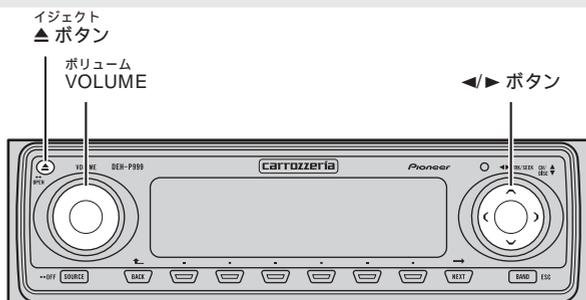
⚠ 注意

フロントパネルを開けたままで使用しない



禁止

フロントパネルを開けたままでは使用しないでください。万一、事故が起きた場合、開けたままのフロントパネルに当たるとケガの原因となります。



3 音量を調節する

VOLUMEを押す

押すと手前に出てきます。

もう一度押すと、元に戻ります。

VOLUMEを回す

右回し：大きくするとき

左回し：小さくするとき



0 ~ 40の範囲で調節できます。

約4秒間、音量が表示されます。

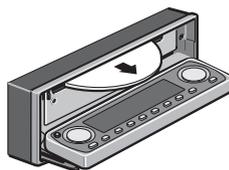
メモ

CDをセットしたまま電源をOFFにしたり、他のソース(ラジオやマルチCDなど)に切り換えることもできます。(☞ ここだけで① 14ページ)
CD挿入口には、CD以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因となります。
フロントパネルを開いた状態では、セレクションキーで操作することはできません。

4 CDを取り出してCD再生をやめる

▲ボタンを押す

自動的にフロントパネルが開きCDが出てきます。



出てきたCDはすぐに取り出して、保管してください。

▲ボタンを押して、フロントパネルを閉める
フロントパネルが閉まります。

CD挿入口にゴミやホコリが入るのを防ぐためフロントパネルを開けてください。

ここだけの操作で、ラジオを聞くことができます。

1 ソースを ラジオにする

SOURCE ボタンを押す

ラジオを受信します。



ステレオ放送を受信すると表示されます。

2 バンドを 選ぶ

BAND ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次のようにバンドが切り換わります。



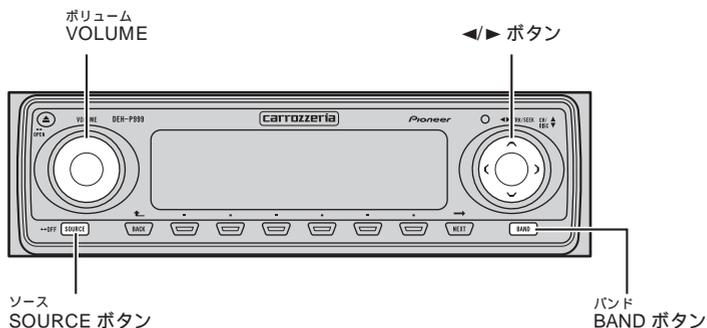
FM-1 FM-2

AM-2 AM-1

バンドごとに放送局を6局ずつ記憶できます。(ラジオ④ 26、28ページ)

バンド1とバンド2を切り換えて使うことでより多くの放送局を記憶できます。例えば、バンド1にはふだんよく聞く放送局を記憶させておきます。旅行先など、どんな放送局があるのかわからない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSMを使うと、バンド1に記憶させた放送局はそのまま使いになれます。

ここだけ読めば
すぐ使えます



3 放送局を選局する

◀または▶ ボタンを押す

- ▶ : 高い周波数の放送局を選局するとき
- ◀ : 低い周波数の放送局を選局するとき



受信周波数

選局方法の使い分け

手動選局 (1ステップずつ)	0.5秒未満
自動選局	0.5秒以上

0.5秒以上押し続けている間、途中の放送局をとばすことができます。ボタンを離れたところから自動選局を開始します。電波の強い放送局を選局するには、自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには、手動選局をおすすめします。

4 音量を調節する

VOLUME を押す

押すと手前に出てきます。

もう一度押すと、元に戻ります。

VOLUME を回す

右回し : 大きくするとき

左回し : 小さくするとき



0 ~ 40の範囲で調節できます。

約4秒間、音量が表示されます。

5 ラジオの受信をやめる

他のソースに切り換えるか、電源OFFにする (E_{OFF} ここだけで① 14ページ)

ここだけの操作で、マルチCDプレーヤーでCDを聞くことができます。

1 ソースを マルチCDにする

SOURCE ボタンを押す

マルチCDの再生が始まります。



2 聞きたいCDを 選ぶ

▲または▼ボタンを押す

▲ : 次のCDを選ぶとき

▼ : 前のCDを選ぶとき



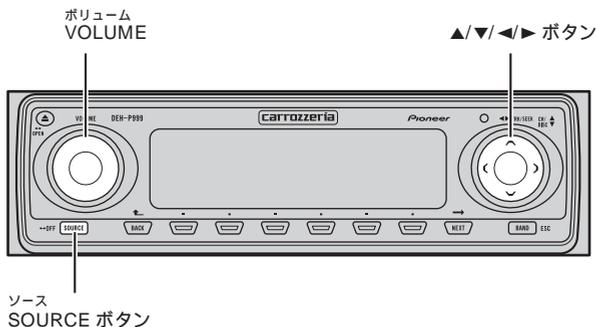
CD番号

メモ

マルチCDが準備動作 (CDの有無の確認やCDの情報の読み込みなど) をしている場合があります。このとき、ソースをマルチCDに切り換えると“Ready”が表示されます。

マルチCD再生中にマルチCDからマガジンを取り出すと、“No MAG”が表示されます。

ここだけ読めば
すぐ使えます



3 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

- ◀または▶ ボタンを押す
- ▶ : 次の曲を選ぶとき (または早送り)
- ◀ : 前の曲を選ぶとき (または早戻し)



再生経過時間 曲番号

選曲と早送り/早戻しの使い分け	
聞きたい曲の選択	0.5秒未満
曲の早送り/早戻し	0.5秒以上押し続けている間

4 音量を調節する

VOLUME を押す
押すと手前に出てきます。
もう一度押すと、元に戻ります。

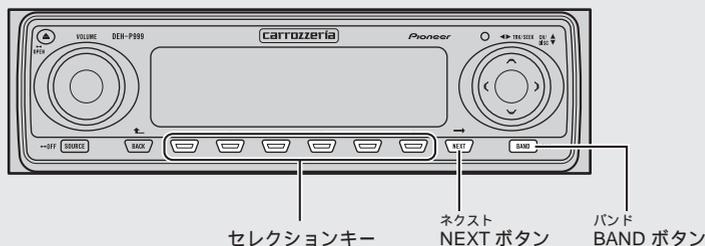
VOLUME を回す
右回し : 大きくするとき
左回し : 小さくするとき



0 ~ 40の範囲で調節できます。
約4秒間、音量が表示されます。

5 マルチCD再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源OFFにする (E 2 ここだけで① 14ページ)



内蔵CD
1

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 セレクションキーを切り換える

NEXT ボタンを押す
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT RDM SCAN T.LIST PAUSE

TTLin

RPT RDM SCAN T.LIST PAUSE へ 戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す
押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT → RDM → SCAN → T.LIST → PAUSE → TTLin → RPT に戻る

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、タイトル入力モード(TTLin)を選んでいる場合、自動では解除されません。

トラックリストモード(T.LIST)は、CD TEXT再生中のみ表示され、操作することができます。

内蔵CD

2

同じ曲を繰り返し 聞く

トラックリピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞くことができます。

1 リピートプレイ設定 モードにする

FUNC ボタンを押す

リピートプレイ設定モード以外を選んでいる場合は、RPT ボタンを押す。

2 リピート再生をONにする

RPT ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



今聞いている曲を繰り返し再生します。

内蔵CD

3

いつもと違う曲順で 聞く

ランダム再生

選曲をCDプレーヤーにまかせて、いつもと違う曲順(ランダム)で再生することができます。

1 ランダムプレイ設定 モードにする

FUNC ボタン、RDM ボタンの順に押す

2 ランダム再生をONにする

RDM ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



次の曲から、ランダムに選曲します。

内蔵CD

4

聞きたい曲をさがす

スキャン再生

曲の始めの部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます。

1 スキャンプレイ設定 モードにする

FUNC ボタン、SCAN ボタンの順に押す

2 スキャン再生を始める

SCAN ボタンを押す



曲の始めの約10秒間が次々に再生されます。

3 聞きたい曲が再生されたら スキャン再生をOFFにする

確認

ファンクションモードが解除されていたら、手順1の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてから、スキャン再生をOFFにしてください。

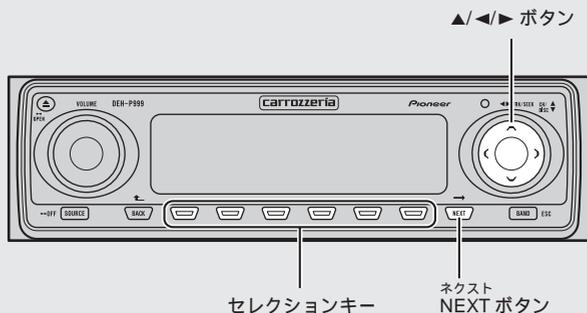
スキャンプレイ設定モードのときにSCAN ボタンを押す



メモ

スキャン再生を始めた曲まで戻るとスキャン再生は解除されます。

内蔵CDでCDを聞く



内蔵CD
5

曲名を見て聞きたい曲をさがす

トラックリスト

「CD TEXT」再生中に、曲名の一覧(トラックリスト)を見ながら聞きたい曲を選ぶことができます。

1 トラックリストモードにする

FUNC ボタン、T.LIST ボタンの順に押す



いま聞いている曲の番号の下に、“_”が表示されます。

2 聞きたい曲名を表示する

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに6曲ずつ表示が切り換わります。

3 聞きたい曲を選ぶ

聞きたい曲と同じ番号のボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

メモ

「CD TEXT」に、曲名が収録されていないときは、“No T.Title”が表示されます。

◀/▶ ボタンで聞きたい曲を選び、▲ ボタンで選んだ曲を再生することもできます。

内蔵CD
6

CD再生を一時停止する

ポーズ

CD再生を一時停止することができます。

1 ポーズ設定モードにする

FUNC ボタン、PAUSE ボタンの順に押す

2 CD再生を一時停止する

PAUSE ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

次の表示のPAUSEボタンでも、ポーズのON/OFFをすることができます。



CDのタイトルを入力する

ディスクタイトル入力

CDにタイトルを入力することができます。また、入力したタイトルはディスプレイに表示されます。

タイトル入力について

タイトル表示は、CDのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。タイトルを入力しておく、CD再生時に入力したタイトルが表示されます。タイトルの記憶のしかたは、マルチCDと同じです。(※ マルチCD 35ページ)

タイトルは、10文字まで入力できます。内蔵CDのタイトルは、48枚分の記憶ができます。

48枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

タイトルを記憶させたCDをマルチCDにセットしたときは、ディスプレイにタイトルを表示させることができます。

マルチCDを組み合わせると、最大100枚分のタイトルを記憶することができます。

タイトル入力機能のないマルチCDを組み合わせると、タイトル入力することができなくなります。

タイトル表示を切り換える

タイトル表示/タイトルスクロール

「CD TEXT」について

「CD TEXT」とは、CDのタイトル/歌手名/曲名などの文字情報が収録されたCDです。ディスクタイトル面に下記マークのついているCDは、「CD TEXT」です。(下記マークが付いていない「CD TEXT」もあります。)



タイトル表示について

本機はカナやアルファベットなどの表示だけでなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。「CD TEXT」に漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。

タイトル表示/タイトルスクロール(つづき)

「CD TEXT」再生中に、ディスクタイトルのほかにトラックタイトルやディスクアーティスト名を表示させることができます。全角で16文字、半角で32文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見ることができます。

1 タイトルモードにする

TITLE ボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1

ボタン	表示内容
D.TTL	ディスクタイトル
D.ART	ディスクアーティスト名
T.TTL	トラックタイトル
T.ART	トラックアーティスト名
THNDR	稲妻のアニメーション
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

ボタン	表示内容
TTL1	ディスクタイトルとトラックタイトル
TTL2	ディスクタイトルとディスクアーティスト名
TTL3	トラックタイトルとトラックアーティスト名
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

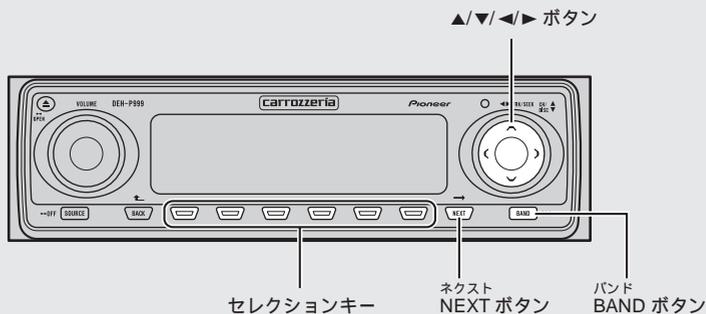
メモ

タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトルモードでは、◀/▶ ボタンで曲を選ぶことはできません。

FORM 2 を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で12文字、半角で24文字までになります。トラックアーティスト名などが記憶されていないCDで表示を切り換えると、「No artist name」などが表示されます。

タイトルが入力されていないCDで表示を切り換えると、「No title」が表示されます。



ラジオ 1 放送局を1局ずつ記憶させる

プリセットメモリー

1～6のボタンに、お好みの放送局を、1局ずつ手で記憶させることができます。

1 記憶させるバンドを選ぶ

BAND ボタンを押す
(☞ ここだけで③ 18 ページ)

2 記憶させたい放送局を選局する

◀または▶ ボタンを押す
(☞ ここだけで③ 19 ページ)

3 “1”～“6”を表示する

NEXT ボタンを押す
“1”～“6”が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。



4 記憶させる

1～6のボタンの1つを2秒以上押す



押したボタンの番号(記憶番号)が点滅します。

記憶が終わると点滅が終わり、押したボタンに受信中の放送局が記憶されます。

メモ

記憶させた放送局を呼び出すには (☞ ラジオ②)

記憶させた放送局を
呼び出す

プリセットチューニング

記憶させた放送局は、簡単に呼び出すことができます。

1 記憶させたバンドを選ぶ

BAND ボタンを押す

(※ ここだけで③ 18ページ)

2 記憶させた放送局を呼び出す

記憶させた放送局を順番に呼び出す

▲または▼ボタンを押す

▲：次の記憶番号の放送局を呼び出すとき

▼：前の記憶番号の放送局を呼び出すとき

記憶させた放送局を直接呼び出す

1～6のボタンの1つを押す

確認

“1”～“6”が表示されていないときは、NEXT ボタンで、“1”～“6”を表示してから操作してください。



受信中の記憶番号

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 セレクションキーを
切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

BSM chLIST

ST.SEL

BSM chLIST に戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 ファンクションモードを
解除する

BAND ボタンを押す

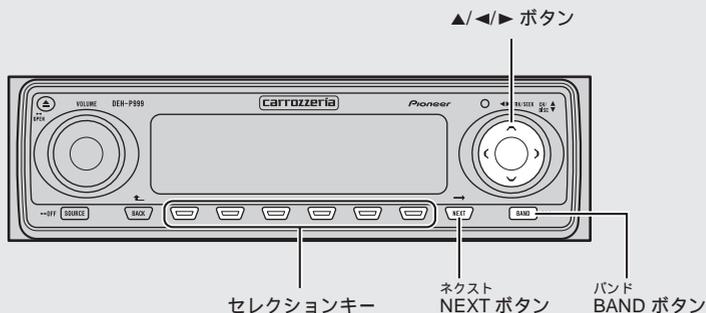
リモコンの場合

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

BSM → chLIST → ST.SEL → BSM に戻る

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

ラジオ
4

複数の放送局を自動的に記憶させる

BSM

受信状態の良い放送局をさがして、自動的に1～6のボタンに記憶させることができます。

1 記憶させるバンドを選ぶ

BAND ボタンを押す
(ここだけで② 18ページ)

2 BSM モードにする

FUNC ボタンを押す
BSMモード以外を選んでいる場合は、BSM
ボタンを押す。

3 BSM を始める

BSM ボタンを押す
ボタンを押すごとにON/OFFします。



記憶が終わるとステーションリストモードに切り換わり、1のボタンに記憶した放送局を受信します。

4 聞きたい放送局を選ぶ

聞きたい放送局と同じ番号のボタンを押す
選んだ放送局を受信します。



いま受信中の放送局の番号の下に、“_”が表示されます。

メモ

受信状態の良い放送局が、6局より少ないときは、前の記憶が残ることがあります。
BSMとは、Best Stations Memory (ベストステーションズメモリー)の略です。
記憶させた放送局を呼び出すには(ラジオ② 27ページ)

放送局名を見て聞きたい放送局を呼び出す

ステーションリスト

1～6のボタンに記憶させた放送局を、放送局名の一覧(ステーションリスト)の中から選ぶことができます。

1 ステーションリストモードにする

FUNCボタン、chLISTボタンの順に押す



いま受信中の放送局の番号の下に、“_”が表示されます。

2 聞きたい放送局を選ぶ

聞きたい放送局と同じ番号のボタンを押す

選んだ放送局を受信します。

メモ

表示されている放送局名が、受信している放送局と異なる場合、放送局名を変更することができます。(ラジオ⑥)

全て空白の放送局名を選んだときは(ラジオ⑥)、周波数が表示されます。

放送局名を選ぶ

放送局名選択

受信している放送局に合わせて、表示する放送局名を選ぶことができます。

放送局名について

同じ周波数でも、地域によって受信する放送局は異なります。表示されている放送局名が受信している放送局名と異なる場合、放送局名を変更することができます。

放送局名選択(つづき)

1 実際の放送局名と表示が異なる場合、放送局名選択モードにする

FUNCボタン、NEXTボタン、ST.SELボタンの順に押す。

注意

現在受信している周波数以外の放送局名を変更することはできません。別の周波数の放送局名を変更したい場合、その周波数を受信して(ラジオ⑥)から放送局名選択モードにしてください。

2 放送局名を選ぶ

◀または▶ボタンを押す

▶：次の放送局名を選ぶとき

◀：前の放送局名を選ぶとき



注意

本機に登録されていない放送局名は選べません。

3 選んだ放送局名に変更する

▲ボタンを押す

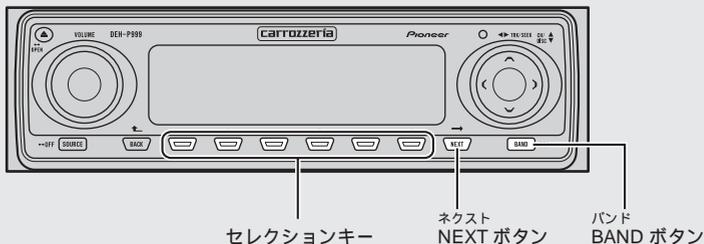
選んだ放送局名に変更されます。

メモ

選んだ周波数に該当する放送局名が登録されていないと、“No data”と表示されます。

放送局名を表示させたくないときは、全て空白の表示を選んでください。

パイオニア製のFMモジュレータータイプのマルチCD(「CDX-FM653など」)をお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせると、放送局名を“FM M-CD”に変更して表示することができます。パイオニア製のTVをFMモジュレーターでお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせると、放送局名を“FM TVsound”に変更して表示することができます。



マルチCD 1 聞きたいCDを 直接選ぶ

ダイレクトサーチ

聞きたいCDにワンタッチで切り換えることができます。

1 “1” ~ “6” (または“7” ~ “12”) を表示する

NEXT ボタンを押す

“1” ~ “6” (または“7” ~ “12”) が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。

1 2 3 4 5 6 ▶

2 聞きたいCDを選ぶ

1 ~ 6 (または7 ~ 12) のボタンを押す



CD番号

メモ

6連奏マルチCDプレーヤーをご使用の場合、“7” ~ “12” の表示には切り換わりません。

マルチCD 2 モードの切り換えかた

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 セレクションキーを
切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT RDM SCAN TLIST OLIST PAUSE ▶

TITLE COMP ITSP ITSM ▶

RPT RDM SCAN TLIST OLIST PAUSE ▶ に戻る

マルチCD 3 同じ曲やCDを繰り返し聞き

リピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞いたり、1枚のCDを繰り返し聞くなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

再生範囲について

再生範囲（繰り返し聞く範囲）は、次の中から選ぶことができます。

再生範囲	リピート再生の内容
トラックリピート	再生中の曲を繰り返し再生します。
ディスクリピート	再生中のCDを繰り返し再生します。
マガジンリピート	マルチCDにセットされているすべてのCDを通して再生します。(通常はこのモードにしておきます。)

1 再生範囲切替モードにする

FUNCボタンを押す

再生範囲切替モード以外を選んでいる場合は、RPTボタンを押す。

2 再生範囲を切り換える

RPTボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



Track repeat (トラックリピート)

Disc repeat (ディスクリピート)

Magazine repeat (マガジンリピート)

Track repeatに戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 ファンクションモードを解除する

BANDボタンを押す

リモコンの場合

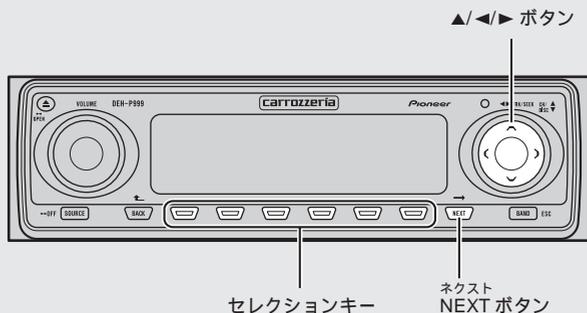
FUNCTIONボタンを押すごとに次のように切り換わります。

RPT → RDM → SCAN → T.LIST → D.LIST → PAUSE → TTLin → COMP → ITS.P → ITS.M → RPTに戻る

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、タイトル入力モード(TTLin)、ITS登録モード(ITS.M)を選んでいる場合、自動では解除されません。

トラックリストモード(T.LIST)は、「CD TEXT」に対応しているマルチCD(CDX-P670など)で「CD TEXT」を再生しているときのみ表示され、操作することができます。



マルチCD 4 いつもと違う曲順で聞く

ランダム再生

選曲をマルチCDにまかせて、いつもと違う曲順(ランダム)で再生することができます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (E37 マルチCD 31 ページ)

選んだ再生範囲内でランダム再生が行われます。

2 ランダムプレイ設定モードにする

FUNC ボタン、RDM ボタンの順に押す

3 ランダム再生をONにする

RDM ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



次の曲から、ランダムに選曲します。

メモ

トラックリピートのときに、ランダム再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わりランダム再生します。

マルチCD 5 聞きたい曲やCDをさがす

トラックスキャン再生/ディスクスキャン再生

今聞いているCDの、曲の始めの部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます。また、すべてのCDの、1曲目の始めの部分だけを次々に聞くこともできます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (E37 マルチCD 31 ページ)

聞きたい曲をさがすとき
(トラックスキャン再生)

再生範囲をディスクリピートに切り換えます。再生中のCDの全曲を、約10秒ずつ再生することができます。

聞きたいCDをさがすとき
(ディスクスキャン再生)

再生範囲をマガジンリピートに切り換えます。マルチCD内のすべてのCDの1曲目だけを、約10秒ずつ再生することができます。

2 スキャンプレイ設定モードにする

FUNC ボタン、SCAN ボタンの順に押す

マルチCD 6 曲名を見て聞きたい曲をさがす

トラックリスト

「CD TEXT」再生中に、曲名の一覧(トラックリスト)を見ながら聞きたい曲を選ぶことができます。

1 トラックリストモードにする

FUNC ボタン、T.LIST ボタンの順に押す



いま聞いている曲の番号の下に、“_”が表示されます。

ご注意

「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)で「CD TEXT」を再生しているときだけ、トラックリストモードに切り換わります。

2 聞きたい曲名を表示する

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに6曲ずつ表示が切り換わります。

3 聞きたい曲を選ぶ

聞きたい曲と同じ番号のボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

メモ

「CD TEXT」に、曲名が収録されていないときは、“No T.Title”が表示されます。
◀/▶ ボタンで聞きたい曲を選び、▲ ボタンで選んだ曲を再生することもできます。

3 スキャン再生を始める

SCAN ボタンを押す



曲の始めの約10秒間が次々に再生されます。

4 聞きたい曲(CD)が再生されたらスキャン再生をOFFにする

確認

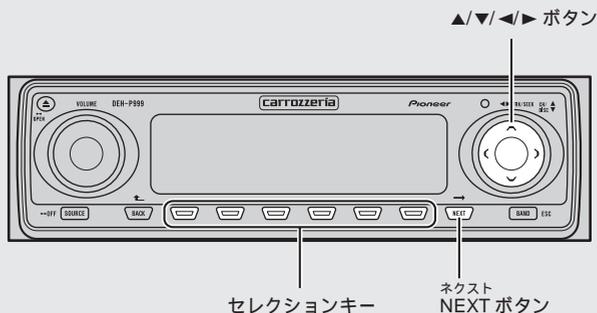
ファンクションモードが解除されていたら、手順2の操作を行ってもう一度スキャンプレイ設定モードにしてから、スキャン再生をOFFにしてください。

スキャンプレイ設定モードのときに
SCAN ボタンを押す



メモ

スキャン再生を始めた曲(またはCD)まで戻ると、スキャン再生は解除されます。
トラックリピートのときに、スキャン再生をONにすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わりトラックスキャン再生します。



マルチCD 7 タイトルを見て聞きたいCDをさがす

ディスクリスト

CDのタイトル一覧(ディスクリスト)を見ながら、聞きたいCDを選ぶことができます。

1 ディスクリストモードにする

FUNC ボタン、D.LIST ボタンの順に押す



いま聞いているCDの番号の下に、“_”が表示されます。

2 聞きたいCDを選ぶ

聞きたいCDと同じ番号のボタンを押す
選んだCDが再生されます。

メモ

7～12枚目のディスクを選ぶ場合、NEXT ボタンを押して“7”～“12”を表示してから、手順2の操作で聞きたいCDを選びます。6連奏マルチCDプレーヤーをご使用の場合、“7”～“12”の表示には切り換わりません。

◀/▶ ボタンで聞きたいCDを選び、▲ ボタンで選んだCDを再生することもできます。マガジンにCDがセットされていないときは、“No disc”が表示されます。また、タイトルが記憶されていないCDを入れたときは、“No D.Title”が表示されます。

マルチCD 8 CD再生を一時停止する

ポーズ

CD再生を一時停止することができます。

1 ポーズ設定モードにする

FUNC ボタン、PAUSE ボタンの順に押す

2 CD再生を一時停止する

PAUSE ボタンを押す
ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

次の表示のPAUSEボタンでも、ポーズのON/OFFをすることができます。



CDにタイトルを入力することができます。また、入力したタイトルはディスプレイに表示されます。

タイトル入力について

タイトル表示は、CDのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。タイトル入力しておくこと、CD再生時に入力したタイトルが表示されます。

CDにタイトルをつけるとディスクリスト (☞ マルチCD⑦) で聞きたいCDをさがすこともできます。

「CD TEXT」に対応しているマルチCD (「CDX-P670」など) では、「CD TEXT」にあらかじめ収録されているCDタイトルで同様にディスクリスト (☞ マルチCD⑦) をすることができます。

タイトルは10文字まで入力できます。

記憶はCDごとに行われます。CDを入れ替えても、そのCDの記憶は消えません。

タイトルは、ITS (☞ マルチCD⑩ 38ページ) と合わせてCD100枚分の記憶ができます。

100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

1 タイトルを入力したいCDを再生する

▲または▼ボタンを押す

(☞ ここだけで④ 20ページ)

2 タイトル入力モードにする

FUNCボタン、NEXTボタン、TTLinボタンの順に押す

ご注意

「CD TEXT」に対応しているマルチCD (「CDX-P670」など) で「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードに切り換えると、「入力できません」と表示され、タイトルを入力することはできません。(「CD TEXT」に収録されているCDタイトルは変更できません。)

3 タイトルを入力する

入力する位置を選ぶ

◀または▶ボタンを押す

▶: 右に移動させるとき

◀: 左に移動させるとき



入力する位置でカーソルが点滅します。10文字まで入力できます。

入力する文字を選ぶ

▲または▼ボタンを押す

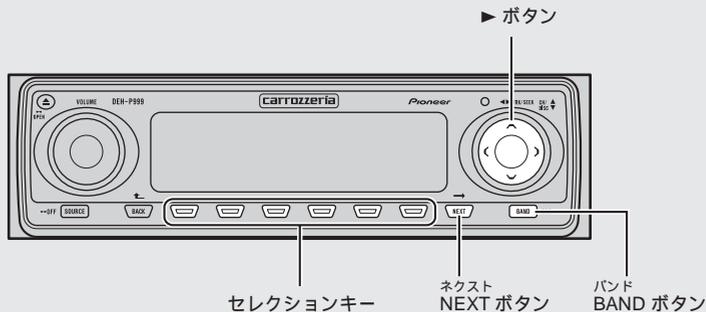
▲: 次の文字を選ぶとき

▼: 前の文字を選ぶとき



選んだ文字が点滅します。

押すボタン	選べる文字
ABCボタン (ABCボタンを押すごとに切り換わります。)	アルファベットの小文字 (a ~ z)、空白 (_) アルファベットの 大文字 (A ~ Z)、数字 (0 ~ 9)、記号 (!、#、&など) 空白 (_)
012ボタン	数字 (0 ~ 9)、 記号 (!、#、&など)、 空白 (_)
アイウボタン (アイウボタンを押すごとに切り換わります。)	カタカナ (ア ~ ン)、 音引き (-)、 空白 (_) 拗促音 (ア、ヨ、ツなど)、 濁点、半濁点、 空白 (_)



マルチCD
9

CDのタイトルを記憶させる (つづき)

タイトル入力 (つづき)

4 入力が終わったら 10文字目を点滅させる



余ったところを空白にして、10文字目を点滅させます。

6 タイトル入力モードを 解除する

BAND ボタンを押す

メモ

タイトル入力中 (文字が点滅しているとき) にBAND ボタンを押すと、タイトル入力モードが途中で解除されます。(この場合、入力中のタイトルは記憶されません。)

5 入力したタイトルを 記憶させる

▶ ボタンを押す



入力位置の点滅が終わり、入力したタイトルが記憶されます。

大きな音と小さな音の音量差を小さくしたり、低音域を押し上げたりすることができます。

チェック COMP/DBE機能の付いたマルチCDプレーヤーで操作できます。

COMPについて

COMPとは、Compression (コンプレッション)の略です。大きな音を抑え、小さな音を押し上げて、大きな音と小さな音の音量差を小さくする機能です。この機能は、小さな音が聞きとりにくいようなときにお使いになると便利です。

DBEについて

DBEとは、Dynamic Bass Emphasis (ダイナミック バス エンファシス)の略です。DBEは、車内で不足しがちな低音域を押し上げる機能です。

1 コンプレッション設定モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、COMP ボタンの順に押す



現在のCOMP/DBEの状態が表示されます。

ご注意

COMP/DBE機能のないマルチCDを組み合わせたときは、“No COMP”が表示されて、操作ができません。

2 機能を選ぶ

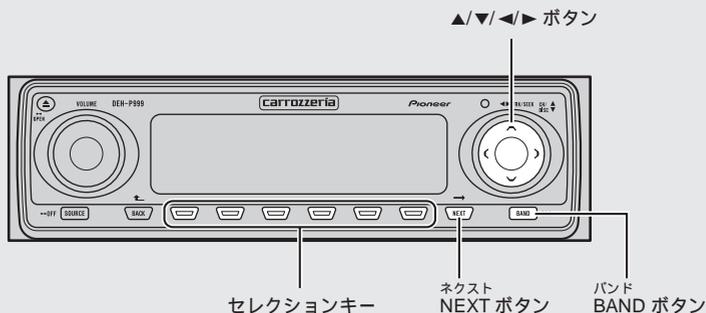
COMP ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

- COMP OFF → COMP 1 (コンプレッション1)
- COMP 2 (コンプレッション2)
- COMP OFF → DBE 1 → DBE 2
- COMP OFFに戻る

メモ

COMP、DBEともに1より2の方が効果が大きくなります。



マルチCD
11

聞きたい曲だけ記憶させておく

ITS登録

記憶させた曲だけ再生する (P13 マルチCD⑫) ために、あらかじめ聞きたい曲をマルチCDに記憶させておきます。

ITSについて

ITSとは、Instant Track Selection (インスタントトラック セレクション) の略です。

ITSは、聞きたい曲だけを記憶させておき、それを再生する (P13 マルチCD⑫) 機能です。

曲の記憶はCDごとに行われます。CDを入れ換えても、そのCDの記憶は消えません。

CD1枚につき24曲まで記憶できます。(25曲以上収録されているCDでは、25曲目以降に収録されている曲は記憶できません。)

ITSは、タイトル (P13 マルチCD⑨ 35ページ) と合わせてCD100枚分の記憶ができます。

100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

1 記憶させたいCDを再生する

▲または▼ボタンを押す
(P13 ここだけで④ 20ページ)

2 ITS登録モードにする

FUNCボタン、NEXTボタン、ITS.Mボタンの順に押す

3 記憶させたい曲を選ぶ

◀または▶ボタンを押す
(P13 ここだけで④ 21ページ)

4 記憶させる

MEMOボタンを押す



約2秒間表示され、記憶したことを知らせます。

6 ITS登録モードを解除する

BANDボタンを押す

メモ

ITS登録モードでは、▲ボタンでも曲を登録することができます。

記憶させた曲だけ再生する

ITS再生

ITS登録 (E3 マルチCD①) で記憶させた曲だけを再生することができます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (E3 マルチCD④ 31ページ)

選んだ再生範囲内でITS再生が行われます。

2 ITSプレイ設定モードにする

FUNCボタン、NEXTボタン、ITS.Pボタンの順に押す

3 ITS再生をONにする

ITS.Pボタンを押す
ボタンを押すごとにON/OFFします。



ITS再生が始まり、記憶させた曲だけが再生されます。

メモ

手順1で選んだ再生範囲内に、記憶させた曲がない場合は、“ITS empty”が約2秒間表示されて、ITS再生は行われません。

記憶させた曲を1曲ずつ記憶から消す

ITS消去 (1曲ごと)

記憶させた曲を1曲ずつ消すことができます。

1 ITS再生をONにする (E3 マルチCD⑫)

2 消去したい曲を再生する

◀または▶ボタンを押す
(E3 ここだけで④ 21ページ)

3 ITS登録モードにする

FUNCボタン、NEXTボタン、ITS.Mボタンの順に押す

4 消去する

CLEARボタンを押す



次に記憶されている曲
再生していた曲が記憶から消去され、次に記憶されている曲が再生されます。

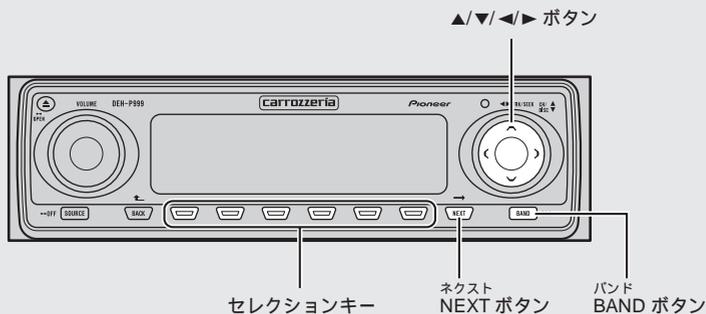
5 ITS登録モードを解除する

BANDボタンを押す

メモ

現在の再生範囲内に記憶させた曲がなくなった場合は、“ITS empty”が約2秒間表示されて、ITS再生がOFFになります。

ITS登録モードでは、▼ボタンでも曲を消去することができます。



マルチCD
14

記憶させた曲をCDごとに記憶から消す

ITS消去 (CDごと)

記憶させた曲をCDごとに消すことができます。

1 消去したいCDを再生する

▲または▼ボタンを押す
(※ ここだけで④ 20 ページ)

ITS再生がONになっているときは、ITS再生をOFFにしてください。(※ マルチCD⑫ 39 ページ)

4 ITS登録モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

ITS登録モードでは、▼ボタンでもCDごとに曲を消去することができます。

2 ITS登録モードにする

FUNC ボタン、NEXT ボタン、ITS.M ボタンの順に押す

3 消去する

CLEAR ボタンを押す



約2秒間表示され、消去したことを知らせます。

「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)で「CDTEXT」再生中に、ディスクタイトルのほかにトラックタイトルやディスクアーティスト名を表示させることができます。全角で16文字、半角で32文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見ることができます。

チェック 「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)の機能です。

「CD TEXT」について

「CD TEXT」とは、CDのタイトル/歌手名/曲名などの文字情報が収録されたCDです。ディスクタイトル面に下記マークのついているCDは、「CD TEXT」です。(下記マークが付いていない「CD TEXT」もあります。)



タイトル表示について

本機はカナやアルファベットなどの表示だけではなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。「CD TEXT」に漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。

1 タイトルモードにする

TITLE ボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1

ボタン	表示内容
D.TTL	ディスクタイトル
D.ART	ディスクアーティスト名
T.TTL	トラックタイトル
T.ART	トラックアーティスト名
THNDR	稲妻のアニメーション
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

ボタン	表示内容
TTL1	ディスクタイトルとトラックタイトル
TTL2	ディスクタイトルとディスクアーティスト名
TTL3	トラックタイトルとトラックアーティスト名
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

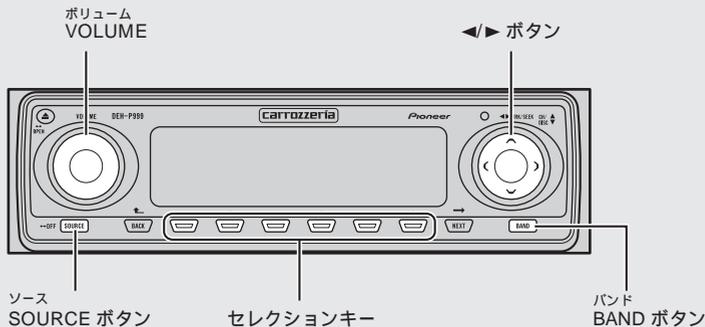
メモ

タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトルモードでは、◀/▶ボタンで曲を選ぶことはできません。

FORM 2を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で12文字、半角で24文字までになります。トラックアーティスト名などが記憶されていないCDで表示を切り換えると、“No artist name”などが表示されます。

タイトルが入力されていないCDで表示を切り換えると、“No title”が表示されます。



1枚型MDプレーヤーについて

本機での1枚型MDプレーヤーの基本的な操作方法を説明しています。1枚型MDプレーヤーの機能について、詳しくは組み合わせた1枚型MDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

画面例)



1枚型MDのふだんの操作

ここだけの操作で、1枚型MDプレーヤーでMDを聞くことができます。

1 ソースを1枚型MDにする

SOURCE ボタンを押す

2 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀または▶ ボタンを押す

3 音量を調節する

VOLUME を回す

4 1枚型MD再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源OFFにする

1 枚型MD

2

ファンクションモードの操作

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したいモードのボタンを押す

RPT RDM SCAN PAUSE

3 選んだモードを操作する

リピートプレイ設定モード (RPT)

RPT ボタンを押すごとに ON/OFF します。

ランダムプレイ設定モード (RDM)

RDM ボタンを押すごとに ON/OFF します。

スキャンプレイ設定モード (SCAN)

SCAN ボタンを押すごとに ON/OFF します。

ポーズ設定モード (PAUSE)

PAUSE ボタンを押すごとに ON/OFF します。

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

1 枚型MD

3

タイトル表示を切り換える

タイトル表示/タイトルスクロール

ディスクタイトルやトラックタイトルを表示させることができます。全角で16文字、半角で32文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見えることもできます。

1 タイトルモードにする

TITLE ボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1

ボタン	表示内容
D.TTL	ディスクタイトル
T.TTL	トラックタイトル
THNDR	稲妻のアニメーション
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

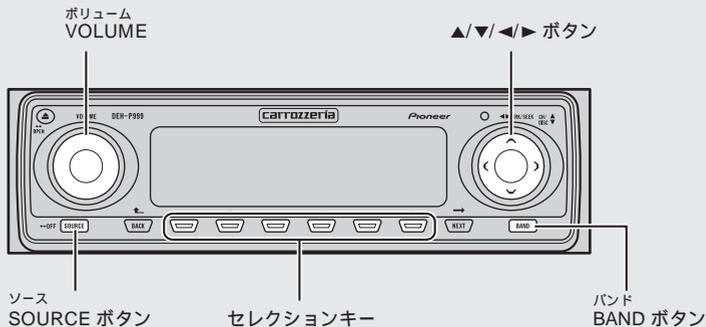
ボタン	表示内容
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

メモ

タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトルモードでは、◀/▶ ボタンで曲を選ぶことはできません。

FORM 2 を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で12文字、半角で24文字までになります。タイトルが入力されていないMDで表示を切り換えると、“No title”が表示されます。



マルチMDプレーヤーについて

本機でのマルチMDプレーヤーの基本的な操作方法を説明しています。マルチMDプレーヤーの機能について、詳しくは組み合わせたマルチMDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

画面例)



マルチMD 1 マルチMDの ふだんの操作

ここだけの操作で、マルチMDプレーヤーでMDを聞くことができます。

1 ソースをマルチMDにする

SOURCE ボタンを押す

2 聞きたいMDを選ぶ

▲または▼ボタンを押す

3 聞きたい曲を選ぶ (または早送り/早戻し)

◀または▶ボタンを押す

4 音量を調節する

VOLUME を回す

5 マルチMD再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源OFFにする

メモ

1～6ボタンで直接ディスクを選ぶこともできます。
(※ マルチCD ① 30ページ)

ファンクションモードの操作

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したいモードのボタンを押す

RPT RDM SCAN LIST

3 選んだモードを操作する

再生範囲切換モード (RPT)

RPT ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Track repeat → Disc repeat → MultiMD repeat → Track repeatに戻る

ランダムプレイ設定モード (RDM)

RDM ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Random OFF → Random 1 → Random 2 → Random OFFに戻る

スキャンプレイ設定モード (SCAN)

SCAN ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Scan OFF → Scan 1 → Scan 2 → Scan OFFに戻る

ディスクリストモード (D.LIST)

ディスクリストモードの操作方法はマルチCDと同じです。(※ マルチCD ⑦ 34 ページ)

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトル表示を切り換える

タイトル表示/タイトルスクロール

ディスクタイトルやトラックタイトルを表示させることができます。全角で16文字、半角で32文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見えることもできます。

1 タイトルモードにする

TITLE ボタンを押す

2 表示したいタイトルを選ぶ

表示したいタイトルのボタンを押す

FORM 1

ボタン	表示内容
D.TTL	ディスクタイトル
T.TTL	トラックタイトル
THNDR	稲妻のアニメーション
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

FORM 2

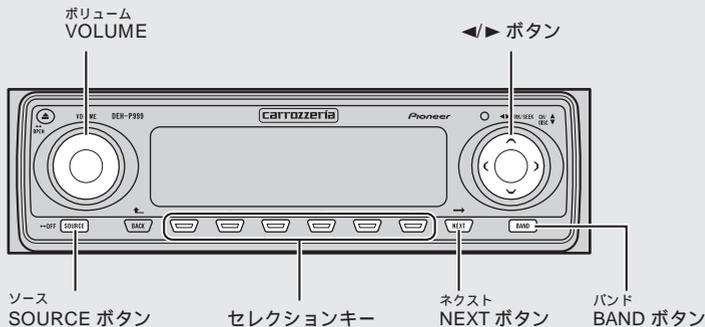
ボタン	表示内容
SCROLL	表示しているタイトルのスクロール

メモ

タイトルモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

タイトルモードでは、◀/▶ ボタンで曲を選ぶことはできません。

FORM 2 を選んでいる場合、一度に表示できるのは全角で12文字、半角で24文字までになります。タイトルが入力されていないMDで表示を切り換えると、“No title”が表示されます。



テレビのふだんの操作

ここだけの操作で、テレビを見ることが出来ます。

テレビについて

本機でのテレビの基本的な操作方法を説明しています。テレビの機能について、詳しくは組み合わせたテレビの取扱説明書をご覧ください。

本機では、記憶させたチャンネルを一覧表示して見たいチャンネルを選ぶこともできます。(☞ テレビ③)

画面例)



1 ソースをテレビにする

SOURCE ボタンを押す

2 バンドを選ぶ

BAND ボタンを押す

3 チャンネルを選局する

◀または▶ ボタンを押す

4 音量を調節する

VOLUME を回す

5 テレビの受信をやめる

他のソースに切り換えるか、電源 OFF にする

メモ

1 ~ 12 ボタンでお好みのチャンネルの記憶や呼び出しを行うことができます。(☞ ラジオ① ② 26、27 ページ)

ファンクションモードの操作

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ファンクションモードにする

FUNC ボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したいモードのボタンを押す

BSSM chLIST MPX

3 選んだモードを操作する

BSSM 設定モード (BSSM)

BSSM ボタンを押すごとに ON/OFF します。BSSM が終了すると、自動的にチャンネルリストモードに切り換わります。

チャンネルリストモード (chList)

chList ボタンを押すとチャンネルリストモード (☞ テレビ) に切り換わります。(チャンネルリスト機能に対応していないテレビでは、“chList” が表示されず、操作することができません。)

マルチプレックス選択モード (MPX)

MPX ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Main → Sub → Main & Sub → Main に戻る

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

ファンクションモードは、約 30 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

BSSM とは、Best Stations Sequential Memory (ベストステーションズシーケンシャルメモリー) の略です。

チャンネル一覧から見たいチャンネルを呼び出す

チャンネルリスト

1 ~ 12 のボタンに記憶させたチャンネルの一覧 (チャンネルリスト) から見たいチャンネルを選ぶことができます。

チェック チャンネルリスト機能に対応しているテレビで操作できます。

1 チャンネルリストモードにする

FUNC ボタン、chLIST ボタンの順に押す



いま受信中のチャンネルの番号の下に、“_”が表示されます。

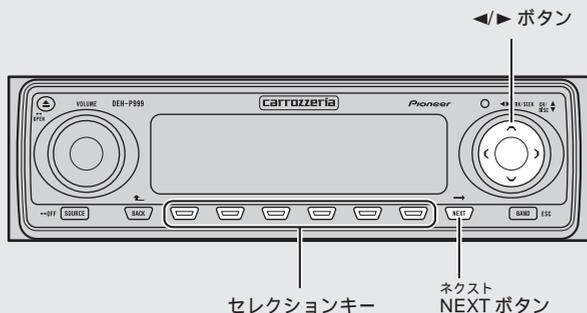
2 見たいチャンネルを選ぶ

見たいチャンネルと同じ番号のボタンを押す

選んだチャンネルを受信します。

メモ

7 ~ 12 ボタンに記憶されているチャンネルを選ぶ場合、NEXT ボタンを押して“7” ~ “12”を表示してから、手順 2 の操作で見たいチャンネルを選びます。



音の調節

1

オーディオ調節のポイント

心地よい音の空間を手軽に演出したり、お好みに合わせてきめ細かく調節することができます。

手軽に心地よい音場を演出する

次の機能は、車種によって異なる音響特性に合わせた音場の演出を手軽に調節することができます。

イコライザーカーブを選ぶ (EQ)

音場の中心で聞く (PUSH)

車種に合ったタイムアライメントを選ぶ (T.AL1)

イコライザーカーブを大まかに補正する (EQ1)

きめ細かくお好みに合わせて調節する

次の順に設定や調節することで、きめ細かくお好みの音場を創り出すことができます。

音場の中心で聞く (PUSH)

車種に合ったタイムアライメントを選ぶ (T.AL1)

タイムアライメントを調節する (T.AL2)

サブウーファーを使う (SW1, SW2)

低い音をスピーカーから出力させないようにする (HPF F, HPF R)

前後左右の音量バランスを調節する (F/B)

オートイコライジングを行う (A.EQ)

イコライザーカーブを選ぶ (EQ)

イコライザーカーブを大まかに補正する (EQ1)

イコライザーカーブを細かく調節する (EQ2)

便利な機能

「手軽に心地よい音場を演出する」や「きめ細かくお好みに合わせて調節する」を行ったあと、お好みに合わせてお使いいただくと効果があります。

小音量時の音にメリハリをつける (LOUD)

イメージに合った演奏会場を再現する (SFC)

騒音に合わせて音量を変える (ASL)

各ソースの音量の違いをそろえる (SLA)

音の歪みを補正する (D.ATT)

イコライザーカーブを選ぶ

あらかじめ用意されたイコライザーカーブの中からお好みのイコライザーカーブを選ぶことができます。

CUSTOM について

“CUSTOM1”と“CUSTOM2”は、お好みに合わせて調節することができます。(E音の調節 ⑧ 54 ページ)

FLAT について

イコライザーによる音の補正はされていません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えることで、設定したイコライザーカーブの効果を確認することができます。

1 イコライザーモードにする

EQ ボタンを押す

2 イコライザーカーブを選ぶ

選みたいイコライザーカーブのボタンを押す

ボタン	イコライザーカーブ
S.BASS	SUPER BASS
PWRFL	POWERFUL
NATRAL	NATURAL
VOCAL	VOCAL
FLAT	FLAT
CSTM1	CUSTOM1
CSTM2	CUSTOM2



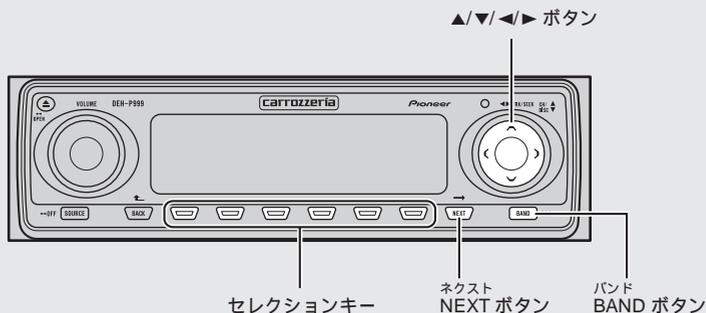
選んだイコライザーカーブが表示されます。

メモ

“CSTM2”を選ぶ場合、NEXT ボタンを押して、“CSTM2”を表示してから、手順2の操作で選びます。

◀または▶ ボタンでイコライザーカーブを選ぶこともできます。

イコライザーモードは、約8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。



音の調節 3

オーディオ調節モードの切り換えかた

音を調節するときには、オーディオ調節モードを切り換えて操作します。

1 オーディオ調節モードにする

AUDIO ボタンを押す

2 セレクションキーを切り換える

NEXT ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

F/B LOUD SFC EQ1 EQ2 ASL ▶

POS1 TAL1 TAL2 SW1 SW2 HPF ▶

HPF SLA A.EQ D.ATT ▶

F/B LOUD SFC EQ1 EQ2 ASL ▶ に戻る

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 オーディオ調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

AUDIO ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

F/B → LOUD → SFC → EQ1 → EQ2 → ASL → POS1 → T.AL1 → T.AL2 → SW1 → SW2 → HPF F → HPF R → SLA → A.EQ → D.ATT → F/B に戻る

メモ

オーディオ調節モードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、イコライザー・13バンド調節モード(EQ2)、タイムアライメント調節モード(T.AL2)を選んでいる場合、自動では解除されません。

“T.AL2”は、リスニングポジションセクターモードで“FL”または“FR”を選んでいるときだけ表示されます。

“SW1”は、RCA外部出力の設定(☞ 便利な機能 78ページ)を“Subwoofer”にしているときだけ表示されます。

“SW2”は、サブウーファーモードをONにしているときだけ表示されます。

ラジオのFMを聞いているときは、“SLA”は表示されません。

“A.EQ”は、オートイコライザーが設定されたあとに表示されます。

前後左右の音量 バランスを調節する

フェーダー/バランス

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。

1 音量バランス調節 モードにする

AUDIO ボタンを押す

音量バランス調節モード以外を選んでいる場合は、F/B ボタンを押す。

2 音量バランスを調節する

前後を調節する

▲または▼ボタンを押す

▲：前を強めるとき

▼：後ろを強めるとき



前後のバランスはF25 ~ R25の範囲で調節できます。

左右を調節する

◀または▶ボタンを押す

▶：右を強めるとき

◀：左を強めるとき



左右のバランスはL25 ~ R25の範囲で調節できます。

小音量時の音に メリハリをつける

ラウドネス

小さな音量で聞いているときの、低・高音の不足感を補正して、メリハリのある音にすることができます。

1 ラウドネスモードにする

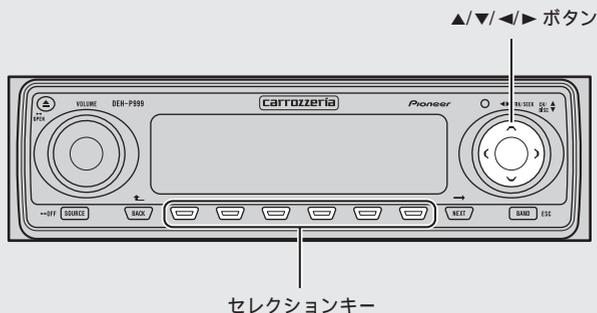
AUDIO ボタン、LOUD ボタンの順に押す

2 ラウドネスをONにする

LOUD ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。





音の調節 6

イメージに合った演奏会場を再現する

SFC / OCT / BBE

SFCで実際にその演奏会場にいるかのようなリアルな音場を再現することができます。また、Octaverではレベルの切り換え、BBEではレベルの調節をすることができます。

SFC について

SFCとはSound Field Control (サウンドフィールド コントロール) の略です。SFCは、車室内にリアルな音場を再現することができます。STUDIOやDOMEなど4つの音場空間を再現するプログラムが用意されています。

OCT (オクターバー) について

サブウーファー帯域の超低音域を補うことで、低音を強調した重量感のある音で聞くことができます。OCTAVER2のほうがOCTAVER1より低音を強調する効果があります。

BBE について

高音域の補正とともに低音域を押し上げることで、高音は鮮明に細部まで再現され、低音は締まりのある明確な音となります。このため、ライブ演奏に近い、自然で臨場感のある音で再生することができます。

1 SFC モードにする

AUDIO ボタン、SFC ボタンの順に押す

2 音場プログラムを選ぶ

選びたい音場プログラムのボタンを押す
同じボタンを押すごとにON/OFFします。

ボタン	音場プログラム
STUDIO	STUDIO
CLUB	CLUB
HALL	CONCERT HALL
DOME	DOME
OCT	OCTAVER 1、2
BBE	BBE



選んだ音場プログラムが表示されます。

SFC / OCT / BBE (つづき)

OCTを選ぶ場合

1 OCTを選ぶ

AUDIO ボタン、SFC ボタン、OCT ボタンの順に押す

2 OCTAVERのレベルを選ぶ

▲または▼ボタンを押す

▲ : OCTAVER1を選ぶとき

▼ : OCTAVER2を選ぶとき



BBEを選ぶ場合

1 BBEを選ぶ

AUDIO ボタン、SFC ボタン、BBE ボタンの順に押す

2 BBEのレベルを調節する

▲または▼ボタンを押す

▲ : レベルを大きくするとき

▼ : レベルを小さくするとき



レベルは - 4 ~ + 4 の範囲で調節できます。

メモ

この製品はBBEサウンド・インコーポレーテッドからの実施権に基づき製造されています。この製品は米国BBE社の所有する特許USP4638258と4482866を使用しています。BBEとBBEのシンボルは、BBE Sound, Inc.の登録商標です。

音の調節

7

イコライザーカーブを 大まかに補正する

ニュアンスコントロール

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを調節することで、好みの音質をつくることができます。

1 調節したいイコライザーカーブ を選ぶ (※音の調節④ 49ページ)

2 イコライザー調節 モードにする

AUDIO ボタン、EQ1 ボタンの順に押す

3 イコライザーカーブを 調節する

▲または▼ボタンを押す

▲ : 強めるとき

▼ : 弱めるとき

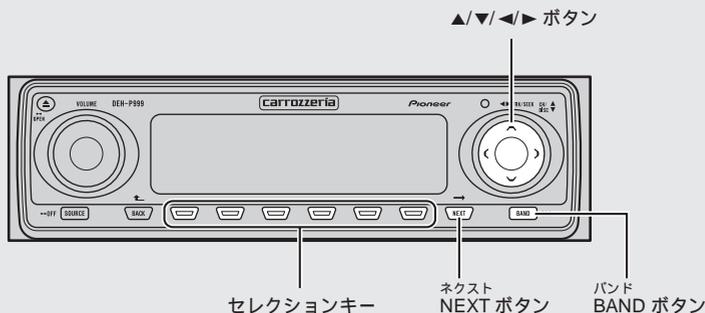


- 6 ~ + 6 の範囲で調節できます。

メモ

◀または▶ボタンでイコライザーカーブを選ぶこともできます

“FLAT” や全ての周波数が “0” に設定されているイコライザーカーブでは、ニュアンスコントロールすることはできません。

音の調節
8

イコライザーカーブを細かく調節する

イコライザー調節

お好みに合わせて、イコライザーカーブの周波数レベルを細かく調節することができます。

CUSTOM1 について

“CUSTOM1”には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。(内蔵CDとマルチCD、1枚型MDとマルチMDは、同じ設定になります。)

“CUSTOM2”以外のカーブを選んでいるときに調節すると、“CUSTOM1”に記憶されます。

CUSTOM2 について

“CUSTOM2”は、すべてのソースに共通したイコライザーカーブで、お好みに合わせて調節することができます。

“CUSTOM2”を選んでいるときに調節すると、調節したカーブが新しい“CUSTOM2”として記憶されます。

1 調節したいイコライザーカーブを選ぶ (音の調節 49 ページ)

2 イコライザー 13 バンド調節モードにする

AUDIO ボタン、EQ2 ボタンの順に押す

3 各周波数ごとのレベルを調節する

周波数を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す



選んだ周波数が表示されます。

選べる周波数 (Hz)

50、80、125、200、315、500、800、1.25k、2k、3.15k、5k、8k、12.5k

レベルを調節する

▲または▼ ボタンを押す

▲：強めるとき

▼：弱めるとき



-6 ~ +6 の範囲で調節できます。

調節したイコライザーカーブは、そのまま保存されます。

4 イコライザー 13 バンド調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

騒音に合わせて 音量を変える

ASL

騒音に合わせて、自動的に音量が変わるようにすることができます。

ASLについて

ASLとは、Automatic Sound Levelizer (オートマチック サウンド レベライザー) の略です。

ASLは、走行速度や道路状況によって変化する車内の騒音を検出して、騒音が大きくなると自動的に音量を大きくする機能です。

1 ASLモードにする

AUDIO ボタン、ASL ボタンの順に押す

2 ASLの感度を選ぶ

ASL ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



ASL OFF → Low → Mid-Low → Mid
→ Mid-High → High → ASL OFF に戻る

メモ

音量が十分にあるときは、騒音が大きくても、音量の上げ幅は小さくなります。
この機能が働いて音量が上がりにすぎたとき、音が歪むことがあります。そのときはVOLUMEを左に回して音量を下げてください。

音場の中心で聞く

リスニングポジションセクター

乗車位置や人数に合わせて、聞く位置を選ぶことができます。

1 リスニングポジション セクターモードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、POSITION ボタンの順に押す

2 乗車位置を選ぶ

選びたい乗車位置のボタンを押す

同じボタンを押すごとにON/OFFします。

ボタン	乗車位置
FL	左ハンドル車に運転者のみがいるとき
FR	右ハンドル車に運転者のみがいるとき
FRONT	同乗者が助手席にいるとき
ALL	同乗者が後部座席にいるとき

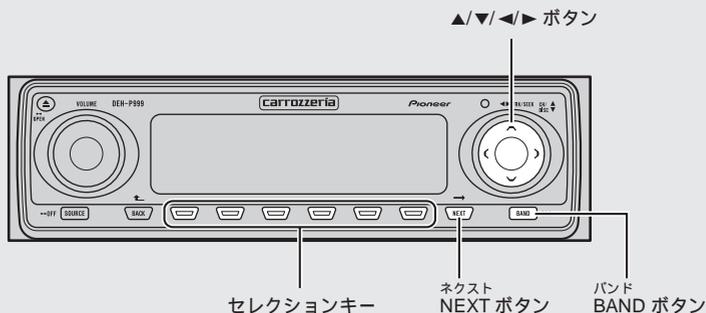


選んだ乗車位置が表示されます。

メモ

▲、▼、◀、または▶ ボタンで乗車位置を選ぶこともできます。

ボタン	乗車位置
◀	左ハンドル車に運転者のみがいるとき
▶	右ハンドル車に運転者のみがいるとき
▲	同乗者が助手席にいるとき
▼	同乗者が後部座席にいるとき

音の調節
11

車種に合ったタイムアライメントを選ぶ

車種別タイムアライメント

あらかじめ車種別に用意されたタイムアライメントの中からお車に合ったものを選ぶことで、自動的に最適なタイムアライメントを設定することができます。

車種別タイムアライメントについて

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節する機能です。

車種別タイムアライメントは、車種に合ったタイムアライメントをあらかじめ記憶していますので、車種を選ぶことで自動的に最適なタイムアライメントを設定することができます。

1 車種別タイムアライメント設定モードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、T.AL1 ボタンの順に押す

2 車種を選ぶ

選みたい車種のボタンを押す

ボタン	車種
CMPCT	Compact (コンパクトカー)
SEDAN	Sedan (セダン)
WAGON	Wagon (ワゴン)
M. VAN	Mini van (ミニバン)
CUSTOM	Custom



選んだ車種が表示されます。

メモ

“Custom” には、お好みに合わせて調節したタイムアライメントが記憶されます。

タイムアライメントを調節する

タイムアライメント調節

車種別タイムアライメントとリスニングポジションを設定することで、タイムアライメントは自動的に設定されますが、このモードでは、さらに厳密にタイムアライメントを調節することができます。

タイムアライメント調節について

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節する機能です。

1 タイムアライメント調節モードにする

確認

リスニングポジションセレクターモードで“FL”か“FR”を選んでいないと、タイムアライメント調節モードを選ぶことはできません。

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、T.AL2 ボタンの順に押す

2 距離の単位を選ぶ

使いたい単位のボタンを押す

ボタン	車種
cm	cm (センチメートル)
inch	inch (インチ)

3 各スピーカーの距離を調節する

調節するスピーカーを選ぶ

◀または▶ ボタンを押す



Front Left、Front Right、Rear Right、Rear Left、Sub. W (Subwoofer) の中から選ぶことができます。

距離を調節する

▲または▼ ボタンを押す

▲ : 距離を遠くするとき

▼ : 距離を近くするとき



0.0 cm から 400.0 cm の範囲で調節できます。(インチを選んでいる場合は、0 inch ~ 160 inch の範囲で調節できます。)

4 タイムアライメント調節モードを解除する

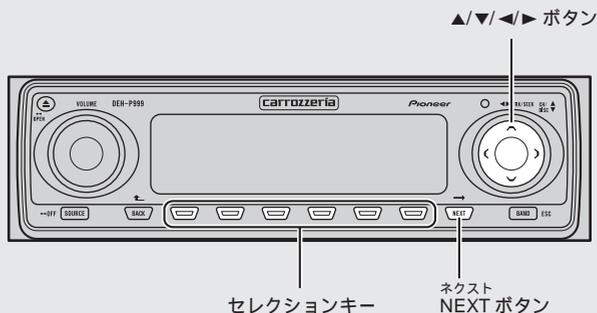
BAND ボタンを押す

メモ

リスニングポジションセレクターモード (音の調節 55 ページ) で“FL”か“FR”を選んでいないと、タイムアライメント調節モードには切り換わりません。

RCA 外部出力の設定 (便利な機能 78 ページ) を“REAR”にしているときは、“Sub. W”には切り換わりません。

サブウーファーモードをOFFにしているときは、“Sub. W”には、切り換わりません。

音の調節
13

サブウーファーを使う

サブウーファー

本機では、RCA出力端子に接続したサブウーファーの調節を行うことができます。(この機能は、初期設定でONになっています。)

位相切り換えについて

サブウーファーから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域のものが含まれています。車内条件により、これらの音の位相どうしが反転(干渉)すると、その周波数帯域が打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐものが、サブウーファーの位相切り換えです。車内条件によって、位相の正相(フロント/リアスピーカーと同時に出力される)が良いか、逆相(フロント/リアスピーカーとタイミングをずらして出力される)が良いかを選んで設定してください。

カットオフ周波数について

50、63、80、100、125(単位: Hz)から選んだ周波数より低い周波数の音域がサブウーファーから出力されます。

1 サブウーファーモードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、SW1 ボタンの順に押す

2 サブウーファーをONにする

SW1 ボタンを押す
ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 位相を切り換える

◀または▶ ボタンを押す
▶ : NORMAL (正相)
◀ : REVERSE (逆相)



ハイパスフィルターをONにすると、選んだ周波数より低い周波数の音が各スピーカーから出力されなくなります。フロントスピーカー、リアスピーカーのそれぞれでお好みの周波数を設定することができます。

ハイパスフィルター (HPF) について

ハイパスフィルターは、設定した周波数から下の音域 (低域) をカットして、高域を通すフィルターです。ハイパスフィルターをONにすることにより、サブウーファーとの音のつながりを調節することができます。

カットオフ周波数について

50、63、80、100、125 (単位: Hz) から選んだ周波数より高い音域がフロントまたはリアスピーカーから出力されます。

フロントスピーカーの調整をするとき

1 フロントハイパスフィルター調整モードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタン、HPF F ボタンの順に押す

2 フロントハイパスフィルターをONにする

HPF F ボタンを押す
ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 フロントハイパスフィルターのカットオフ周波数を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す
▶ : 高い周波数を選ぶとき
◀ : 低い周波数を選ぶとき



50、63、80、100、125 (Hz) の中から選ぶことができます。

4 サブウーファー調節モードにする

SW2 ボタンを押す

5 カットオフ周波数とレベルを調節する

周波数を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

▶ : 高い周波数を選ぶとき

◀ : 低い周波数を選ぶとき



50、63、80、100、125 (Hz) の中から選ぶことができます。

レベルを調節する

▲または▼ ボタンを押す

▲ : レベルを大きくするとき

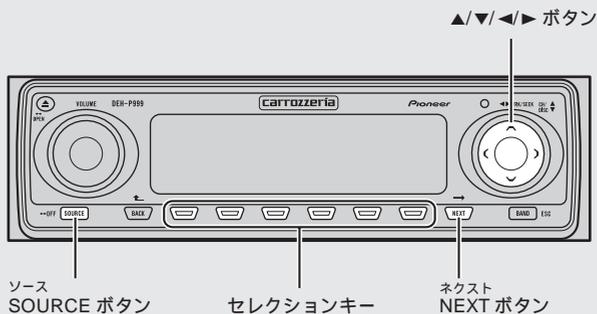
▼ : レベルを小さくするとき



レベルは - 24 ~ + 6 の範囲で調節できます。

メモ

RCA外部出力の設定 (便利機能⑩ 78ページ) を "REAR" にしているときは、サブウーファーモード (SW1) には切り換わりません。サブウーファーをOFFにしたときは、サブウーファー調節モード (SW2) には、切り換わりません。

音の調節
14

低い音を出力しないようにする (つづき)

ハイパスフィルター (HPF) (つづき)

リアスピーカーの調整をするとき

1 リアハイパスフィルター
調整モードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタンを 2 回、
HPF R ボタンの順に押す

2 リアハイパスフィルター
を ON にする

HPF R ボタンを押す
ボタンを押すごとに ON/OFF します。

3 リアハイパスフィルターの
カットオフ周波数を選ぶ

- ◀または▶ ボタンを押す
▶ : 高い周波数を選ぶとき
◀ : 低い周波数を選ぶとき



50、63、80、100、125 (Hz) の中から選
ぶことができます。

各ソースの音量の 違いをそろえる

SLA

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、FMの音量を基準にして各ソースの音量の違いをそろえることができます。

1 FMを受信し、FMの音量を確かめる

SOURCE ボタンを押す
( ここだけで④ 18 ページ)

2 調節したいソースに切り換える

SOURCE ボタンを押す
( ここだけで① 14 ページ)

3 SLAモードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタンを2回、SLA ボタンの順に押す

4 レベルを調節する

▲ または ▼ ボタンを押す

▲ : レベルを大きくするとき

▼ : レベルを小さくするとき



- 4 ~ + 4 の範囲で調節できます。

メモ

SLAとはSource Level Adjuster (ソースレベルアジャスター) の略です。

FMの音量を基準に他のソースとの音量差を調節するため、FMを聞いているときは、SLAモードに切り換えることはできません。

AM、テレビ、CD、MD、External (エクスターナルユニット)、AUX (外部機器) のそれぞれの音量差を調節することができます。なお、内蔵CDとマルチCD、1枚型MDとマルチMD、External 1とExternal 2、およびAMと交通情報 ( 便利な機能③ 67 ページ) は同じ設定になります。

オートイコライザー をON/OFFする

オートイコライザー

オートイコライジング ( 音の調節⑩ 64 ページ) で作成したオートイコライザーカーブのON/OFFをすることができます。

1 オートイコライザーモードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタンを2回、A.EQ ボタンの順に押す

2 オートイコライザーをON/OFFする

A.EQ ボタンを押す
ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

オートイコライジング ( 音の調節⑩ 64 ページ) を行っていないときは、オートイコライザーモードには切り換わりません。



セレクションキー

ネクスト
NEXT ボタン音の調節
17

音の歪みを補正する

デジタルアッテネーター

イコライザーカーブの調節 (E37 音の調節 53 ページ) による音の歪みをなくすことができます。

デジタルアッテネーターについて

イコライザーカーブの調節 (E37 音の調節 53 ページ) でレベルを高く設定した周波数の音域が歪むことがあります。イコライザーカーブの調節で音が歪んだように感じたときは、デジタルアッテネーターの設定を LOW に切り換えてください。

1 デジタルアッテネーター設定モードにする

AUDIO ボタン、NEXT ボタンを 2 回、D. ATT ボタンの順に押す

2 設定を選ぶ

選びたい設定のボタンを押す

ボタン	設定
LOW	LOW
HIGH	HIGH

音の調節
18オートイコライジング
を行う前に

オートイコライジング

オートイコライジングを行う前に必ずお読みください。



警告

走行中にオートイコライジングを行わない



禁止

自動車が走行中にオートイコライジングを行わないでください。オートイコライジング機能は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因となることがあります。

スピーカー破損防止について

次の状態でオートイコライジングを行うと、スピーカーが破損する恐れがあります。オートイコライジングを行う前に、よく確認してください。

スピーカーの接続を誤っている場合

(例：サブウーファー出力にリアスピーカーを接続している場合)

スピーカーの耐入力を超える出力のパワーアンプを接続している場合

オートイコライジング機能について

車室内空間は、その広さや複雑な形状、材質により、ホームオーディオに比べ、一般的に音響特性が大きく乱れています。このような車室内の音響特性を補正するためにイコライザーを使用しますが、測定器などを使用せずに設定するのはかなり困難な作業になります。

本機のオートイコライジング機能は、車室内の音響特性を自動的に測定し、そのデータに基づいて、車室内の音響特性が乱れの少ない滑らかな特性に近づくように自動的に補正します。(イコライザーカーブを呼び出したときは、オートイコライジングにより乱れの少ない滑らかな特性になった上でイコライザーカーブが設定されますので、より効果的になります。)

オートイコライジングを行う前にお読みください

オートイコライジングは、なるべく静かな所で、車のエンジンおよびエアコンやヒーターを止めて行ってください。また、携帯電話や自動車電話などを車載している場合は、電話を車外へ持ち出すか電源を切ってからオートイコライジングを行ってください。計測音以外の音(車周辺の騒音、エンジン音、電話の着信音など)によって、車室内の音響特性が正しく測定できないことがあります。

オートイコライジングは、必ず付属のマイクを使用して行ってください。付属のマイク以外のマイクでは、オートイコライジングが実行できなかったり、車室内の音響特性が正しく測定できません。

フロントスピーカーとリアスピーカーのどちらも接続されていない場合は、オートイコライジングが実行できません。(どちらかが接続されていれば、オートイコライジングが実行できます。)

入力レベルコントロール付きのパワーアンプを接続している場合、パワーアンプの入力レベルコントロールを下げていると、オートイコライジングが実行できない場合があります。パワーアンプの入力レベルコントロールは推奨位置に合わせてください。

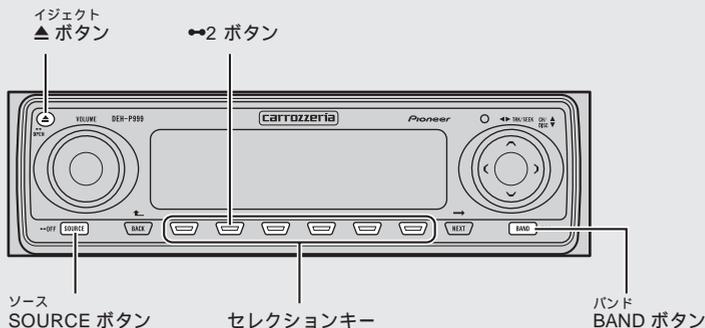
オートイコライジングを行うと、各モードの内容が次の様に変更されます。

- * 前後左右の音量バランス調節(フェーダー/バランス)の設定がリセットされ、初期設定に戻ります。
- * イコライザーカーブは、フラット(FLAT)になります。
- * リスニングポジションセレクターは、Front Rightに設定されます。(ただし、Front Leftに設定していたときだけは、Front Leftのままになります。)
- * RCA外部出力設定(☞ 便利な機能⑦ 78ページ)を“Subwoofer”にし、サブウーファーを接続している場合、サブウーファー出力とリアハイパスフィルターの設定が調節されます。(サブウーファー出力をOFFにしていても、自動的にONになり調節されます。)

オートイコライジングの調節内容について

一度オートイコライジングを行ったあとに、RCA外部出力設定(☞ 便利な機能⑦ 78ページ)を切り換えると、オートイコライジングの調節内容が消去されます。再度、オートイコライジング調節を行ってください。

一度オートイコライジングを行ったあとに、再度オートイコライジングを行うと、前のオートイコライジングの調節内容は消去されます。

音の調節
19

オートイコライジングを行う

オートイコライジングの調節

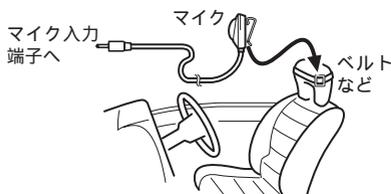
車室内の音響特性を自動的に計測して、車室内の音響特性を最適に自動補正することができます。

1 車の環境を整える

- 静かな所に車を停車させる
- ドア、窓、サンルーフなどを閉める
- 車のエンジンを停止させる

2 マイクをセットする

ベルトなどを使用して、運転席のヘッドレストの中央に付属のマイクを前向きに固定する



ご注意

マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定時間がかかったりして、車のバッテリーが上がる恐れがあります。マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。

3 車のエンジンスイッチをACCまたはONにする

ご注意

車のエアコンやヒーターがONになっている場合は、OFFにしてください。エアコンやヒーターのファンの騒音によってオートイコライジングが実行できないことがあります。

4 本機の電源を入れる

SOURCE ボタンを押す

5 乗車位置を決定する

リスニングポジションセクターモードにして、乗車位置をマイクをセットした座席に設定する。(音の調節⑩ 55ページ)

メモ

乗車位置をFRONT SEAT RIGHTまたはFRONT SEAT LEFT以外に設定したときは、オートイコライジングを始めると、強制的にFRONT SEAT RIGHTに再設定されます。

6 本機の電源を切る

SOURCE ボタンを 1 秒以上押す

7 オートコライジングモードにする

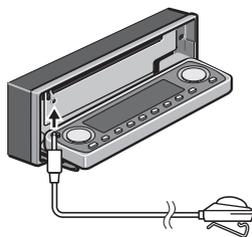
→ 2 ボタンを 2 秒以上押す



フロントパネルが自動的に開きます。

8 マイクを本機に接続する

付属のマイクをマイク入力端子に接続する



9 オートコライジングを始める

A. EQ ボタンを押す

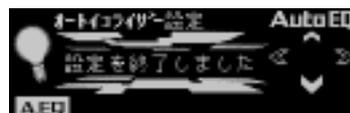
もう一度ボタンを押すと途中解除します。



10 車外に出る

10 秒のカウントダウンが始まるので、10 秒以内に車外に出て、ドアを開める計測音 (ノイズ) が各スピーカーから出力され、オートコライジング (音響特性の測定および補正) が始まります。

11 オートコライジングが自動的に終了する



オートコライジング操作が終わったらセットしたマイクを取り外し、BAND ボタンを押して電源を切り、▲ ボタンを 2 秒以上押してフロントパネルを元の位置に戻してください。

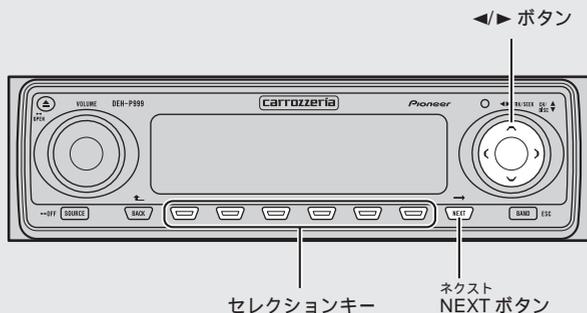


注意

フロントパネルの開閉動作中は、指などを挟まないようにご注意ください。フロントパネルを開けたまま、走行しないでください。急ブレーキ時にフロントパネルに体が当たったりして、思わぬケガをする恐れがあります。

メモ

オートコライジングを途中でやめなくなったときは、BAND ボタンを押してください。強制的に解除して、電源 OFF になります。マイクをセットする位置により、オートコライジングの調節内容が変わります。好みにより、助手席にセットすることもできます。マイクはグローブボックスなどに、大切に保管してください。直射日光の当たる場所に長時間放置すると、高温による変形、変色、故障の原因になる恐れがあります。



便利な機能

1

瞬時に音量を小さくする

アッテネーター

車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音量を小さくすることができます。

1

瞬時に音量を小さくする

ATT ボタンを押す
ボタンを押すごとに ON/OFF します。



アッテネーターが ON のときに反転表示します。
アッテネーターが ON のときは、音量が約 1/10 になります。

便利な機能

2

よく使う機能を直接操作する

ダイレクトファンクション

リモコンの DF ボタンを押すと、よく使う機能をソースごとに直接操作することができます。内蔵 CD・マルチ CD・1 枚型 MD でポーズ、マルチ MD でリピート、ラジオで BSM、テレビで BSSM を操作することができます。

内蔵 CD、マルチ CD、1 枚型 MD のとき

1

再生を一時停止する

リモコンの DF ボタンを押す
(☞ はじめに① 7 ページ)
ボタンを押すごとに機能が ON/OFF します。
(☞ 内蔵 CD⑥ 24 ページ、マルチ CD⑧ 34 ページ、1 枚型 MD の取扱説明書)

ラジオのとき

1

BSM を始める

リモコンの DF ボタンを 2 秒以上押す
(☞ はじめに① 7 ページ)
BSM が始まります。(☞ ラジオ④ 28 ページ)

メモ

BSM 中にリモコンの DF ボタンを押すことで、BSM を途中解除することもできます。

ダイレクトファンクション (つづき)

マルチMDのとき

1 リピート再生を切り換える

リモコンのDF ボタンを押す
( はじめに① 7ページ)
ボタンを押すごとにリピート再生が切り換わります。
( マルチMDの取扱説明書)

テレビのとき

1 BSSM を始める

リモコンのDF ボタンを2秒以上押す
( はじめに① 7ページ)
BSSMが始まります。
( テレビの取扱説明書)

メモ

BSSM中にリモコンのDFボタンを押すことで、
BSSMを途中解除することもできます。

便利な機能

3

交通情報を受信する

トラフィックインフォメーション

AM 1,620 kHzまたは1,629 kHzの交通情報を受信することができます。

1 “TI” を表示する

NEXT ボタンを押す
“TI” が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。

TI 交通情報

2 交通情報を受信する

TI ボタンを押す
交通情報を受信します。

3 放送に合わせて周波数を切り換える

◀または▶ ボタンを押す
▶ : 1,629 kHzにするとき
◀ : 1,620 kHzにするとき



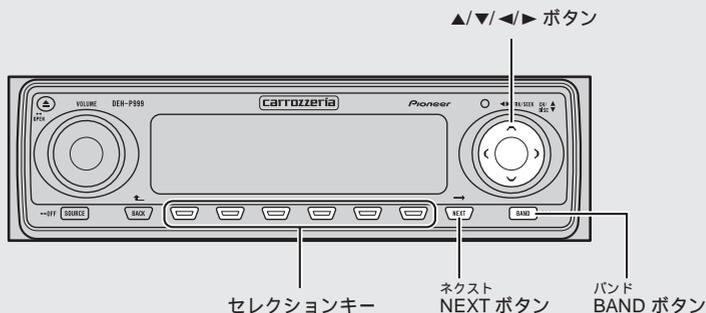
受信周波数

4 交通情報の受信をやめる

TI ボタンを押す
交通情報を受信する前の状態に戻ります。

メモ

この機能は、どのソースからでも操作できます。
交通情報を受信しているときに音量を調節すると、
交通情報用の音量として設定することができます。



便利な機能
4

時計・カレンダーを表示・調節する

時計・カレンダー機能

本機の電源がONのときに時計を表示・調節することができます。

時計を表示する

1 “CLK” を表示する

NEXT ボタンを押す

“CLK” が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。



2 時計表示をONにする

CLKボタン、ON/OFF ボタンの順に押す
ON/OFF ボタンを押すごとにON/OFF します。



時計表示をONにすると同時に、“TIME” や
“DATE”、“JUST” が表示されます。

3 時計・カレンダーモードを解除する

BAND ボタンを押す



時計表示

オフカレンダー表示

時計を表示した状態で電源をOFFにしてから、6のボタンを押してデモモードをOFFにすると、時計表示とともにカレンダーを表示することができます。

メモ

時計モードは、約60秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

日付を設定する

1 時計を表示する

2 カレンダー調整モードにする

DATE ボタンを押す



3 日付の設定をする

年または月、日を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

押すごとに年または月、日が切り換わります。

日付を合わせる

▲または▼ ボタンを押す

▲：日付を進めるとき

▼：日付を戻すとき

メモ

時計を表示した状態で電源をOFFにしてから、フィーチャーデモをOFFにすると、カレンダーを表示することができます。

年は2001年から2050年までの範囲で設定できます。

時計を調整したあとに日付の調整を行うと、設定した時間がずれることがあります。時計の設定を行う前に、日付の設定を行ってください。

時計を設定する

1 時計を表示する

2 時計調整モードにする

TIME ボタンを押す



3 時計の設定をする

時または分を選ぶ

◀または▶ ボタンを押す

押すごとに時または分が切り換わります。

時刻を合わせる

▲または▼ ボタンを押す

▲：時刻を進めるとき

▼：時刻を戻すとき

分を調節すると、0秒からカウントが始まります。

時刻を時報に合わせる

1 時計を表示する

2 時刻を時報に合わせる

JUST ボタンを押す

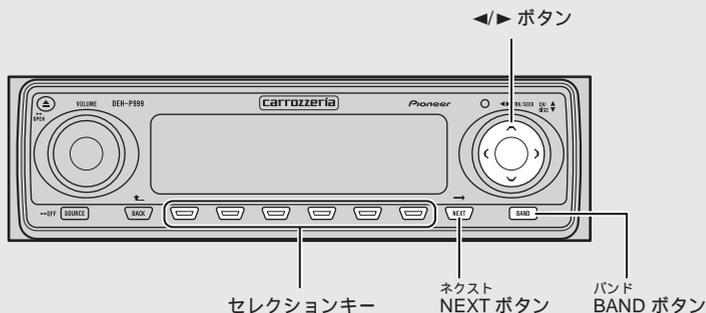
「分」が「00」になります。

例) 10:00 ~ 10:29 → 10:00

10:30 ~ 10:59 → 11:00

メモ

カレンダー調整モードを選んでいる場合、「JUST」は表示されません。



便利な機能

5

カスタムメニューの切り換えかた

表示画面の選択やディマーなどの設定をするときはカスタムメニューを切り換えて操作します。

1 “C. MENU” を表示する

NEXT ボタンを押す

“C. MENU” が表示されるまで、NEXT ボタンを押して切り換える。

TI [PUSH] CLK [MENU]

2 カスタムメニューにする

C. MENU ボタンを押す

3 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

[PUSH] [PUSH] [PUSH] PTRN

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

4 カスタムメニューを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

カスタムメニューは、約 30 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

“PTRN” は、表示画面の “FORM 2” 専用の機能です。“FORM 1” を選択しているときは表示されません。(便利な機能④)

表示画面を選ぶ

表示画面選択

本機の基本画面には、FORM 1とFORM 2の2つの表示方法があり、お好みに合わせて選ぶことができます。

1 表示画面選択モードにする

C. MENU ボタン、D. FORM ボタンの順に押す

2 表示を選ぶ

お好みの表示のボタンを押す

ボタン	表示
FORM1	FORM 1
FORM2	FORM 2

ディスプレイの明るさを調節する

ブライト

ディスプレイの明るさを調節することができます。

1 輝度調整モードにする

C. MENU ボタン、BRGHT ボタンの順に押す

2 明るさを調節する

◀または▶ ボタンを押す

▶ : 明るくしたいとき

◀ : 暗くしたいとき



0 ~ 31 の範囲で調節できます。

夜間のディスプレイの明るさを切り換える

ディマーの設定

夜間、周囲が暗くなったときにディスプレイがまぶしくならないように、車のライトをONにすると、ディスプレイが暗くなります。

1 ディマーモードにする

C. MENU ボタン、DMMER ボタンの順に押す

2 ディマーの設定をONにする

DMMER ボタンを押す

ボタンを押すごとにON/OFFします。



メモ

車のライトをONにしてディマーが働いているときでも、ブライトモード(☞ 便利な機能⑦)でディスプレイの明るさを“0”に調節しているときは、ディスプレイの明るさを変えることはできません。

背景のパターンを選ぶ

壁紙選択

表示画面に“FORM 2”を選んでいる場合、背景のパターンを選ぶことができます。

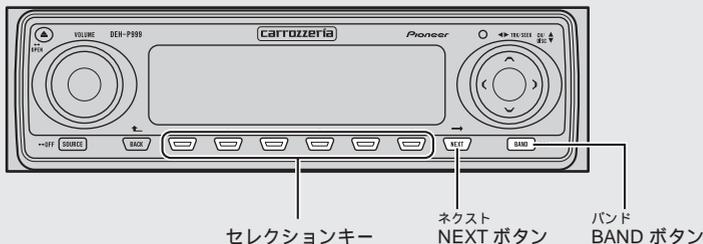
1 壁紙選択モードにする

C. MENU ボタン、PTRN ボタンの順に押す

2 壁紙を選ぶ

A、B、C ボタンの中からお好みの壁紙のボタンを押す





便利な機能
10

エンタテインメントを表示させる

エンタテインメント表示

音楽などを聞いているときに、ディスプレイの表示をエンタテインメント表示に切り換えることで、いろいろな表示を楽しむことができます。

エンタテインメントメニューの切り換えかた

1 エンタテインメントメニューにする

ENT ボタンを押す

2 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す

MOVIE 5/A ASL BG OFF

押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

3 エンタテインメントメニューを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

エンタテインメントメニューは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

“BG”は、表示画面の“FORM 1”専用の機能です。“FORM 2”を選択しているときは表示されません。(便利な機能⑥ 71ページ)

ムービースクリーンを表示する

1 ムービースクリーン選択モードにする

ENT ボタン、MOVIE ボタンの順に押す

2 ムービースクリーンを選ぶ

お好みのムービーのボタンを押す

押したボタンのムービースクリーンが表示されます。

ボタン	表示
MOVIE1	トライアンプ
MOVIE2	エコーズ
MOVIE3	ソニックライン
MOVIE4	オメガロイド
ALL	MOVIE1 ~ 4を順番に表示

レベルインジケータを表示する

1 レベルインジケータ選択モードにする

ENTボタン、S/Aボタンの順に押す

2 レベルインジケータを選ぶ

S/A1 ~ S/A4の中から、お好みのレベルインジケータのボタンを押す
押したボタンのレベルインジケータが表示されます。

ASLレベルインジケータを表示する

1 ASLレベルインジケータを表示する

ENTボタン、ASLボタンの順に押す

メモ

ASLについては (音) 音の調節 55 ページ

バックグラウンドビジュアルを表示する

1 バックグラウンドビジュアル選択モードにする

ENTボタン、BGボタン、BGVボタンの順に押す

2 バックグラウンドビジュアルを選ぶ

BGV1 ~ BGV5の中から、お好みのバックグラウンドビジュアルのボタンを押す
押したボタンのバックグラウンドビジュアルが表示されます。

バックグラウンドスタイルピクチャーを表示する

1 バックグラウンドスタイルピクチャー選択モードにする

ENTボタン、BGボタン、BGPボタンの順に押す

2 “BGP1” ~ “BGP6” と “BGP7” ~ “BGP12” を切り換える

NEXTボタンを押す

ボタンを押すごとに “BGP1” ~ “BGP6” と “BGP7” ~ “BGP12” が切り換わります。

BGP1 BGP2 BGP3 BGP4 BGP5 BGP6

3 バックグラウンドスタイルピクチャーを選ぶ

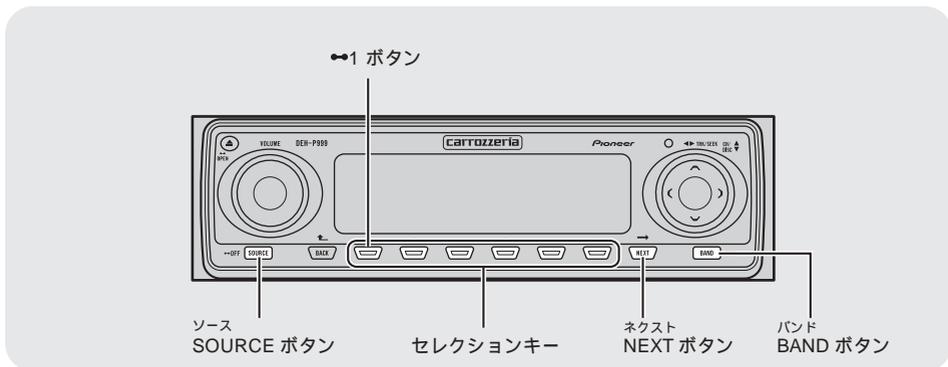
BGP1 ~ BGP12の中から、お好みのバックグラウンドスタイルピクチャーのボタンを押す

押したボタンのバックグラウンドスタイルピクチャーが表示されます。

エンタテインメント表示を解除する

1 エンタテインメント表示を解除する

ENTボタン、OFFボタンの順に押す
現在表示しているエンタテインメント表示をOFFにします。



便利な機能
11

初期設定モードの切り換えかた

外部機器やRCA外部出力の設定をするときは、初期設定モードを切り換えて操作します。

1 電源をOFFにする

SOURCE ボタンを1秒以上押す
(ここだけで14ページ)

2 初期設定モードにする

電源がOFFのときに、 1 ボタンを2秒以上押す

3 セレクションキーを切り換える

NEXT ボタンを押す
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

REV F.DEMO AUX MUTE.S

PREOUT

REV F.DEMO AUX MUTE.S に戻る

4 操作したいモードを選ぶ

操作したい機能のボタンを押す
押したボタンのモードに切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

5 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す
初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

リモコンの場合

電源がOFFのときに、FUNCTION ボタンを2秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押す

FUNCTION ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

REV → F.DEMO → AUX → MUTE.S → PREOUT → REV に戻る

リバースモードをON/OFFする

リバースモードのON/OFFをすることができます。

1 画面反転機能設定モードにする

電源がOFFのときに、**1** ボタンを2秒以上押す

2 画面反転機能設定をONにする

REV ボタンを押す
ボタンを押すごとにON/OFFします。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す
初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

メモ

リバースモードは、本機がOFFのときに、5ボタンを押すことでもON/OFFすることができます。

フィーチャーデモをON/OFFする

フィーチャーデモのON/OFFをすることができます。

1 デモンストレーション設定モードにする

電源がOFFのときに、**1** ボタンを2秒以上押してから、F.DEMO ボタンを押す

2 デモンストレーション設定をONにする

F.DEMO ボタンを押す
ボタンを押すごとにON/OFFします。

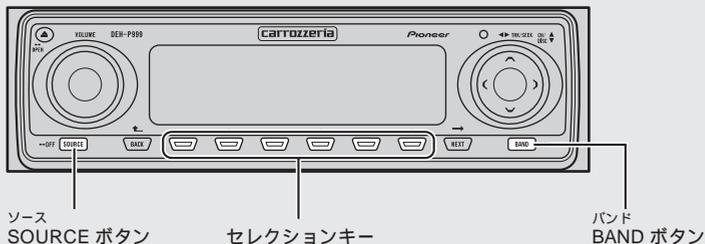


3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す
初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

メモ

フィーチャーデモは、本機がOFFのときに、6ボタンを押すことでもON/OFFすることができます。



便利な機能
14

外部機器の音声を聞く

AUX (外部機器) の設定

本機にDATやVTRなどの外部機器を接続すると、その音声を聞くことができます。

外部機器との接続について

別売のRCA/IP-BUSインターコネクター「CD-RB20」または「CD-RB10」を使うと、RCA出力のあるDATやVTRを、外部機器として本機に接続することができます。

詳しくは、RCA/IP-BUSインターコネクターの説明書をご覧ください。

1 AUX (外部機器) モードにする

電源がOFFのときに、**1** ボタンを2秒以上押してから、AUXボタンを押す

2 AUX (外部機器) の設定をONにする

AUXボタンを押すボタンを押すごとにON/OFFします。



3 初期設定モードを解除する

BANDボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

4 ソースをAUXにする

SOURCEボタンを押して選ぶ
(14 ここだけで14ページ)



ソースをAUXに切り換えると、外部機器の音声が出力されます。

外部機器の名称を入力する

接続した外部機器の名称を入力することができます。

1 ソースをAUXにする

SOURCE ボタンを押して選ぶ

(※ ここだけで① 14 ページ)



2 外部機器の名称入力モードにする

FUNC ボタン、TTLin ボタンの順に押す



3 外部機器の名称を入力し、記憶させる (※ マルチCD⑨ 35 ページ)

CDタイトル入力の手順3～6を参照し、同様の操作で外部機器の名称を記憶させてください。

例) “DAT” を入力した場合



“AUX” の表示のかわりに、入力した名称が表示されます。

メモ

TTLin ボタンを押さなくても、文字を入力することはできますが、アルファベットの小文字やカナ文字などを入力することはできません。

ミュート / アッテネート ネットを切り換える

ミュート / アッテネート設定

ミュート機能のある製品からミュート信号を受け取ったときに、本機の音声をミュートするか、アッテネートするかを選ぶことができます。

ミュートアッテネート機能について

ミュート機能のある製品 (パイオニア製ナビゲーションシステム「AVIC-D9100」など) と本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っているあいだだけ、ミュートまたはアッテネート機能が働きます。ミュート信号を受け取っているときの各設定の音量は、次のようになります。

TEL mute : 音量 “0”

10 dB ATT : もとの音量の 1/3

20 dB ATT : もとの音量の 1/10

ミュートまたはアッテネート機能が解除されると、自動的にもとの音量に戻ります。

1 ミュート設定モードにする

電源がOFFのときに、**1** ボタンを2秒以上押してから、MUTE.S ボタンを押す

2 設定を選ぶ

MUTE.S ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

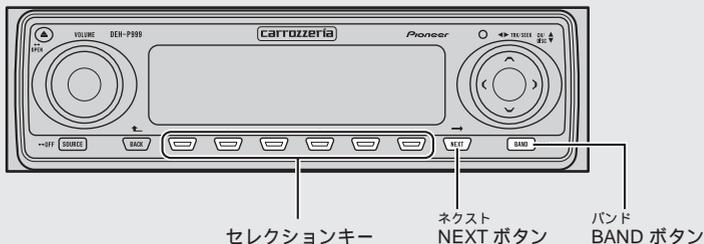


TEL mute → 10 dB ATT → 20 dB ATT
→ TEL mute に戻る

3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。



便利な機能
17

RCA 外部出力から出力される信号を選ぶ

本機のリア出力またはサブウーファー出力に外部アンプを接続した場合、外部アンプに接続するスピーカーに合わせてこの設定を切り換えます。

1 RCA 外部出力モードにする

電源がOFFのときに、**1** ボタンを2秒以上押してから、NEXT ボタン、PREOUT ボタンの順に押す

3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す
初期設定モードが解除され、電源がOFFになります。

2 接続するスピーカーを選ぶ

SW ボタンまたは REAR ボタンを押す

ボタン	スピーカー
SW	サブウーファー
REAR	リアスピーカー

メモ

リアスピーカーに設定したときは、サブウーファーの調節 (音の調節 58 ページ) はできません。



CDの正しい使いかた

使用できるCDについて

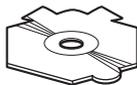
下記マークの付いているコンパクトディスク(光学式デジタルオーディオディスク)をご使用ください。



ひび、キズ、そりのあるCDは使用しないでください。



特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。



音楽用CDレコーダーで録音したもの以外のCD-R/CD-RWディスクは、正常に再生できない場合があります。

音楽用CDレコーダーで録音した音楽用CD-R/CD-RWディスクでも、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。

CD-R/CD-RWディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、本機では表示されない場合があります。。

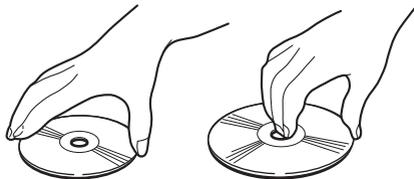
本機はCD-R/CD-RWディスクのトラックスキップ機能に対応しています。スキップ指定された曲を飛ばして再生します。

CD-RWディスクは、ディスクを挿入してから再生が始まるまで、通常のCDやCD-Rディスクより時間がかかります。

CD-R/CD-RWディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

取り扱い上のご注意

CDは、下図のように、信号記録面(虹色に光っている面)をさわらないように持ってください。



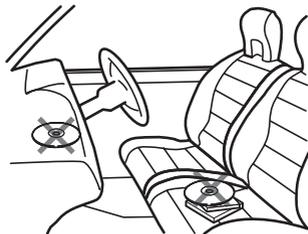
CDにキズを付けないでください。

CDにシールなどを貼り付けしないでください。



保管上のご注意

直射日光の当たるところや高温になるところには、CDを保管しないでください。



CDがそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

メモ

製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に実使用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。

お手入れについて

CDが汚れたときは、柔らかいきれいな布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。



アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。またベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。



当社では、CD用のクリーニングキット「JV-D11」を別売しています。カーステレオ販売店でお買い求めください。

CD再生の環境について

走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。

寒いとき、ヒーターを入れた直後にCD再生を始めると、本機内部の光学系レンズやCDに露が生じて、正常な再生ができないことがあります。

このようなときは、1時間ほど放置して自然に露がとれるのをお待ちください。CDに付いた露は柔らかい布でふいてください。

故障かな?と思ったら

故障かな?と

思ったら
修理を依頼される前に、
次の表の内容をチェック
してください。

チェックしても

直らないときは
本機をリセットしてくだ
さい。(☞ はじめに⑦ 10
ページ)

それでも

直らないときは
保証書とアフターサービス
(☞ その他④ 85ページ)を
お読みになり、修理を依
頼してください。

共通項目

症 状	原 因	処 置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクタが 正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、 もう一度確認してください。 (☞ 取付説明書)
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れた ヒューズを同じ容量のものと交換してく ださい。(☞ 取付説明書)
音が出ない。 音が小さい。	音量を下げている。	音量を上げてください。 (☞ ここだけで② 17ページ) (☞ ここだけで⑥ 19ページ) (☞ ここだけで④ 21ページ)
	アッテネーターがONに なっている。	アッテネーターを解除してください。 (☞ 便利な機能① 66ページ)
	前後の音量バランスの調節 が適切でない。	正しく調節してください。 (☞ 音の調節④ 51ページ)
前または後ろのスピーカ ーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節 が適切でない。	正しく調節してください。 (☞ 音の調節④ 51ページ)
左または右のスピーカ ーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節 が適切でない。	正しく調節してください。 (☞ 音の調節④ 51ページ)
ディスプレイが反転表示 する。	リバースモードがONに なっている。	リバースモードを解除してください。 (☞ 便利な機能⑫ 75ページ)

ラジオ

症 状	原 因	処 置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください。 (☞ ここだけで③ 19ページ)
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。 (☞ ここだけで③ 19ページ)
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音も少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください。 (☞ ここだけで③ 19ページ)

CD

症 状	原 因	処 置
CD再生中、大きな雑音が出る。 CDの再生が途中で止まる。	CDに大きなキズやそりがある。	他のCDと交換してください。良くなればCDの不良です。
	CDが極端に汚れている。	CDの汚れをふき取ってください。 (☞ その他① 80ページ)
	CDにくもりや水滴がついている。	CDの曇りや水滴をふき取ってください。 (☞ その他① 80ページ)
	CDの裏表を逆にしてセットしている。	CDのタイトル面を上にしてセットしてください。(☞ ここだけで② 16ページ)
CDの再生ができない。 CDを取り出せない。	本機がディスクを認識していない。	フロントパネルを開けた状態で、▲ボタンを2秒以上押すと、ディスクを取り出すことができます。 もう一度入れ直してください。

こんなメッセージが表示されたら

CDのエラー表示

CDを正常に再生できないときは、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

メッセージ(エラー番号)	メッセージが表示されるとき	処 置
「ERROR-11」「ERROR-12」 「ERROR-17」「ERROR-30」	CDが汚れているとき。	CDの汚れをふき取ってください。 (☞ その他① 80 ページ)
	CDにキズやひびがあるとき。	CDを交換してください。
「ERROR-14」	CD-R/CD-RWを録音しないまま使用しているとき。	CD-R/CD-RWは、録音してからお使いください。
「ERROR-10」「ERROR-11」 「ERROR-12」「ERROR-14」 「ERROR-17」「ERROR-30」 「ERROR-A0」	電気系、機構系の故障が考えられるとき。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、CD再生を一度やめてから、もう一度CD再生にしてください。
「ERROR-44」	すべての曲がトラックスキップ指定されているとき。	CDを交換してください。
「HEAT」	本機の内部温度が高くなったとき。	内部温度が下がるまでお待ちください。

オートイコライジング機能のエラー表示

オートイコライジング機能によって、車室内の音響特性を正常に測定できないときは、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。内容を確認して、もう一度操作をやりなおしてください。

メッセージ(エラー番号)	メッセージが表示されるとき	処 置
「マイクを確認ください」	マイクが接続されていない。	付属のマイクをきちんと差し込んでください。(☞ 音の調節⑩ 65 ページ)
「スピーカーを確認ください」	スピーカーの計測音がマイクでひろえない。	ソースを切り換えて、スピーカーから音が出るか確認してください。音が出ない場合は、スピーカーリード線の接続を確認してください。
		付属のマイクを正しくセットしてください。
「測定エラーです」	周囲の騒音レベルが高すぎる。	なるべく静かな所に車を停車させ、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。 付属のマイクを正しくセットしてください。

メモ

マルチCD再生中に、上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、マルチCDの取扱説明書をご覧ください。

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることを確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

CD プレーヤー部

形式 : コンパクトディスク
オーディオシステム

使用ディスク : コンパクトディスク

信号
フォーマット : サンプリング周波数 : 44.1 kHz
量子化ビット数 : 16 ビット直線

周波数特性 : 5 ~ 20,000 Hz (± 1 dB)

S/N : 94 dB (1 kHz)
(IHF-A ネットワーク)

ダイナミック
レンジ : 92 dB (1 kHz)

チャンネル数 : 2 (ステレオ)

FM チューナー部

受信周波数帯域 : 76.1 ~ 89.9 MHz

実用感度 : 9 dBf (0.8 μ V/75、
モノラル、S/N : 30 dB)

S/N 50 dB
感度 : 14 dBf
(1.4 μ V/75、モノラル)

S/N : 70 dB (IHF-A ネットワーク)

高調波歪率 : 0.3 %
(65 dBf 入力、1 kHz、ステレオ)

周波数特性 : 30 ~ 15,000 Hz (± 3 dB)

ステレオ
セパレーション : 40 dB (65 dBf 入力、1 kHz)

AM チューナー部

受信周波数帯域 : 522 ~ 1,629 kHz (9 kHz)

実用感度 : 18 μ V (S/N : 20 dB)

実効選択度 : 50 dB (± 9 kHz)

オーディオ/DSP 部

最大出力 : 50 W × 4
定格出力 : 22 W × 4
(50 ~ 15,000 Hz、5 % THD)

負荷
インピーダンス : 4
(4 ~ 8 使用可能)

プリアウト
最大出力レベル : 4.0 V

出力
インピーダンス : 100
ラウドネス
コンター : 10 dB (100 Hz)
6.5 dB (10 kHz)
(ポリウム : -30 dB)

イコライザー

(13 バンド
グラフィック
イコライザー) : 周波数 : 50 Hz、80 Hz、
125 Hz、200 Hz、
315 Hz、500 Hz、
800 Hz、1.25 kHz、
2 kHz、3.15 kHz、
5 kHz、8 kHz、
12.5 kHz
調整幅 : ± 12 dB (2 dB)

オートイコライザー

(13 バンド
グラフィック) : 周波数 (F + R + SW) :
50 Hz、80 Hz、
125 Hz、200 Hz、
315 Hz、500 Hz、
800 Hz、1.25 kHz、
2 kHz、3.15 kHz、
5 kHz、8 kHz、
12.5 kHz
調整幅 : +6 dB ~ - 12 dB (2 dB)

ネットワーク

ハイパス
フィルター : 周波数 (F + R) :
50/63/80/100/125 Hz
スロープ : - 12 dB/oct.

サブウーファー

出力 : 周波数 : 50/63/80/100/125 Hz
スロープ : - 18 dB/oct.
調整幅 : - 24 dB ~ +6 dB (1 dB)
位相 : NORMAL/REVERSE

共通部

使用電源	: DC 14.4 V (10.8 ~ 15.1 V 使用可能)
アース方式	: マイナスアース方式
最大消費電流	: 10.0 A
外形寸法	
(取付寸法)	: 178 (W) × 50 (H) × 162 (D) mm
(ノーズ寸法)	: 170 (W) × 45 (H) × 19 (D) mm
質量	: 1.7 kg (コードユニット含まず)

付属品

コードユニット	: 1
取付ネジ類	: 1 式
マイク	: 1
リモコン	: 1
単4形乾電池(R03)	: 2
取扱説明書	: 1
取付説明書	: 1
安全上のご注意	: 1
保証書	: 1
ご相談窓口・ 修理窓口のご案内	: 1

メモ

上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。



この説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

お客様ご相談窓口 (全国共通フリーフォン)

カスタマーサポートセンター

カーオーディオ / カーナビゲーション商品のお問い合わせ窓口

 0070-800-8181-11

カタログのご請求窓口

 0070-800-8181-33

<ご注意> PHS、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話、および海外からの国際電話ではご利用になれません。あらかじめご了承ください。
修理に関しては、別添えの『ご相談窓口・修理窓口のご案内』をご参照ください。

ホームページでのカタログ請求とメールサービス登録のご案内
<http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg.html>

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

この説明書は、再生紙を使用しています。

© パイオニア株式会社 2001

< KMMZF/01D00000 > < CRA3186-B >